



尾張名所圖會
後編

二

ル 4
4597
9



1075
11

門 4
 號 4597
 卷 9

尾張名所圖會後編卷之二



目録 中島郡下

宗形神社	神主	社僧威徳院	難負捕の圖
大江匡衡教導の圖	大御靈神社	國衙廳館跡	大日堂
伊奈波名神社	修理若御子社	觀音寺	學校跡
久多神社	金名神社	禪源寺	稻葉驛
專正寺	天背男命窟居跡	久田氏宅址	齋所權介成清
光堂橋	長杜天神社	木全又左衛門宅址	苗部天神社
觀音寺	中島郷	中島左衛門尉宣長	長隆寺
玉江御厨	萩原驛	原川	串作の里
信長公富田道場小至りの事	鞠江神社	名産生姜	吉藤里
		起驛	聖徳寺舊跡
			起川

早稲田 大学 図書館
 昭 35.1.28 覽
 藏 書

頸長寺	堤治神社	吉田權現社	木曾川普請陣屋跡
性海寺	蒙古降伏修法の圖	長谷部氏宅址	
千代氏御園	千代名神社	一宮大明神社	桂林寺
大中臣安長塚	八面森	愛智御曹司八面鬼と双六と打圖	
益田森	加納院	馬橋	東源寺
增田右衛門尉長盛		無量光院	縣宮
堀田尾張守之高	大屋中三安資	浄土寺古跡	瀧川氏城跡
小富士塚	大富士塚	棠咋神社	敢臣船主
坂手神社	湍門天神社	願應寺	賣夫神社
屯倉舊跡	生業神社	牛頭天王社	一時上鴈の圖
長福寺	國分寺廢跡	鈴置地神社	圓光寺
圓興寺	名産大根切干	船橋舊跡	船橋觀音堂
國鎮寺	白山權現社	山口保	野見神社廢跡

淺井神社廢跡	河俣下天神社	善應寺	八劍社
布智神社	正琳寺	王塚	德永法印城墟
八劍宮社	伊福部御厨	湍江神社	中野渡
名産櫻鮫	永張寺	神明社	祖父江古城址
祖父江竿鷹	長岡莊	轟川	皇大明神社
柳御園	神明社	地泉院	

尾張大國靈神社

小府宮村

延喜神名式小尾張大國靈神社本國帳小從

一位尾張大國靈大名神と志は心こなり今の國府宮總社大明神と稱し

奉り抑り尚り社は本州の國靈なりて尊神なり昔は五月六日此地にり

りりとて中島直の祖天背男命と契約しり凶暴と鎮めりり所の

御神なり光仁天皇の宝龜二年二月十三日官符を下して宮造と定

りりといて文徳天皇の仁壽三年六月官社を列しりり代の進冠なり

ありといて後鳥羽帝の文治二年三月從一位 土御門帝

の建仁元年二月正一位の神階を小すり給り龜山帝の弘長元

年宮を宣下りりりりりり神徳ににに弥増り靈驗珠

小著り妙興寺に所藏する嘉祿元年八月の廳宣にも一國之總社

府中勸請之敬神と志は心こなり中の四民尊崇すり神廟なり

文徳實錄云仁壽三年六月丁卯以尾張國大國靈神大御と神徳感神

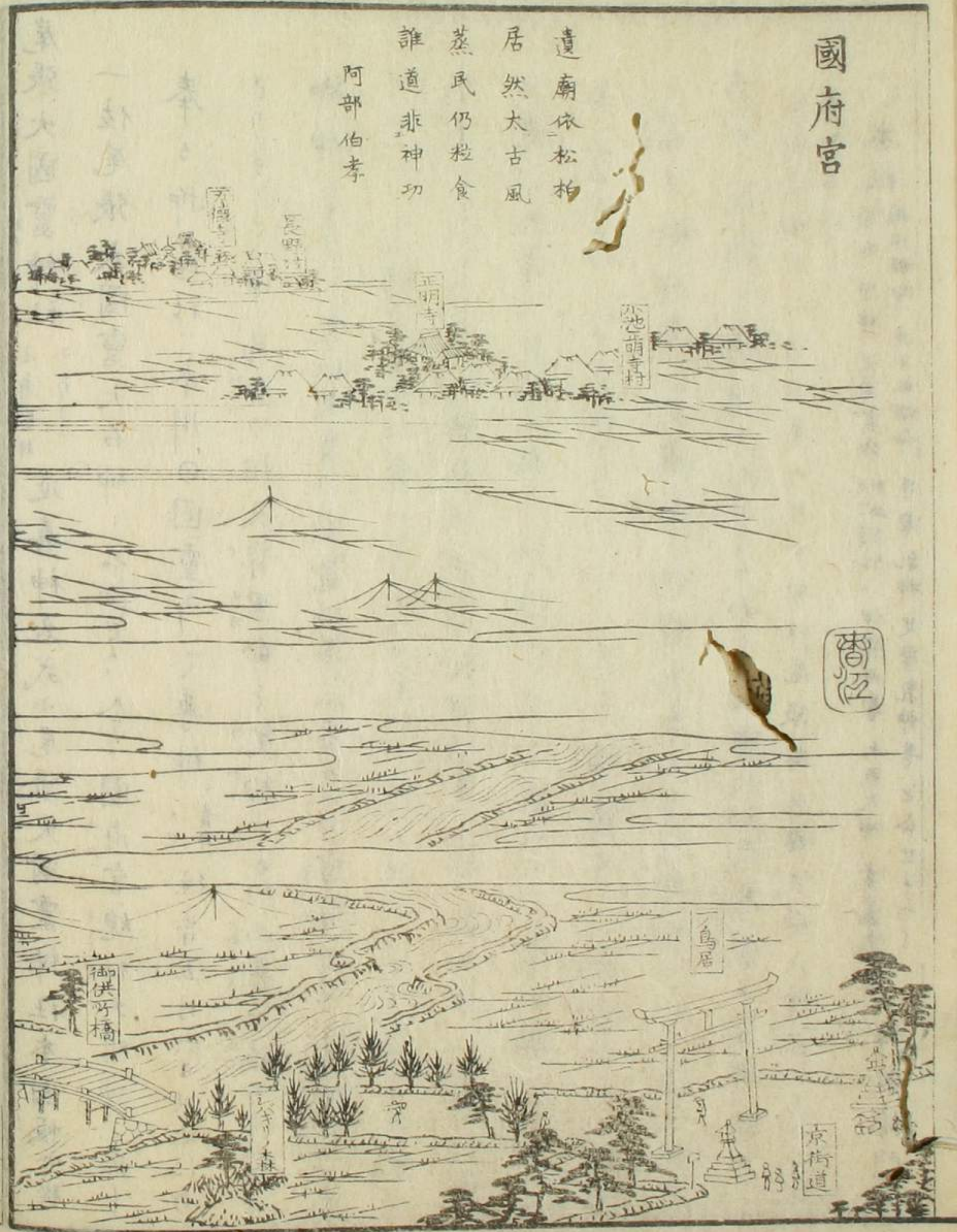
等列官社
○本社南向祭神大國靈命別名貴命伊弉册尊天照大神素盞鳥尊拜殿樓門と

稻田姬命 活玉依姬命 手摩乳神 足摩乳神 等と合せり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

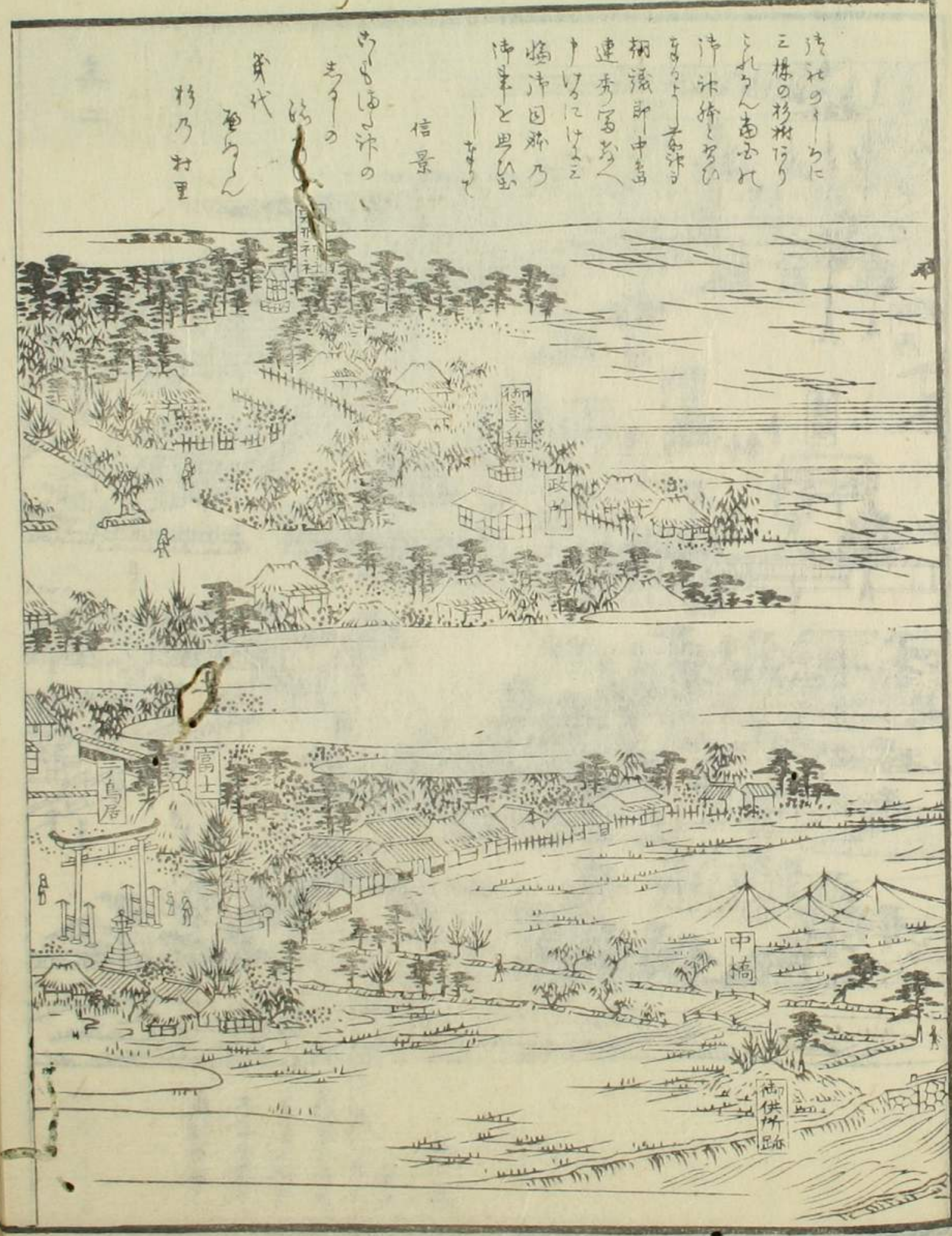
國府宮

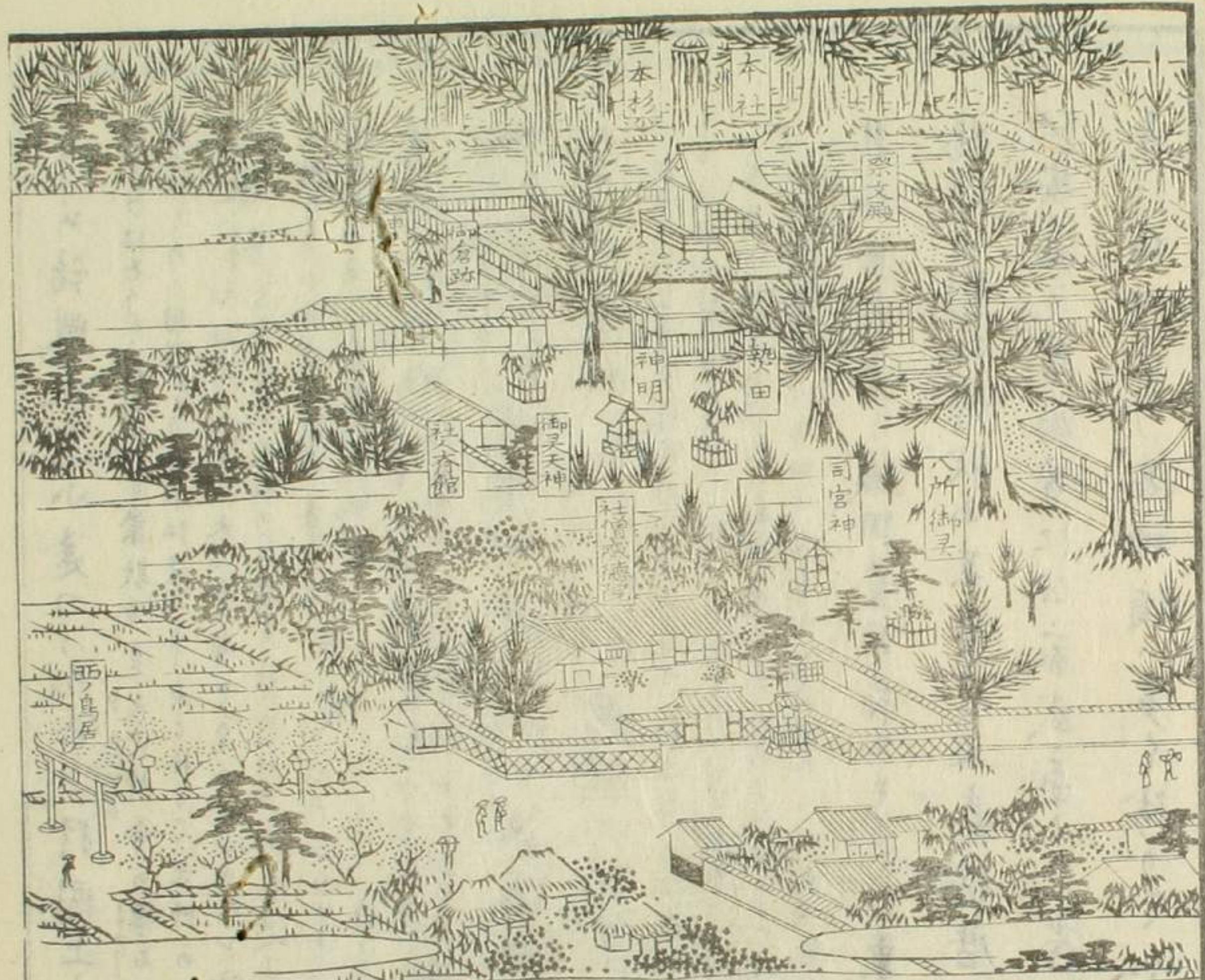
遺廟依松柏
居然太古風
蒸民仍粒食
誰道非神功
阿部伯孝



曹江

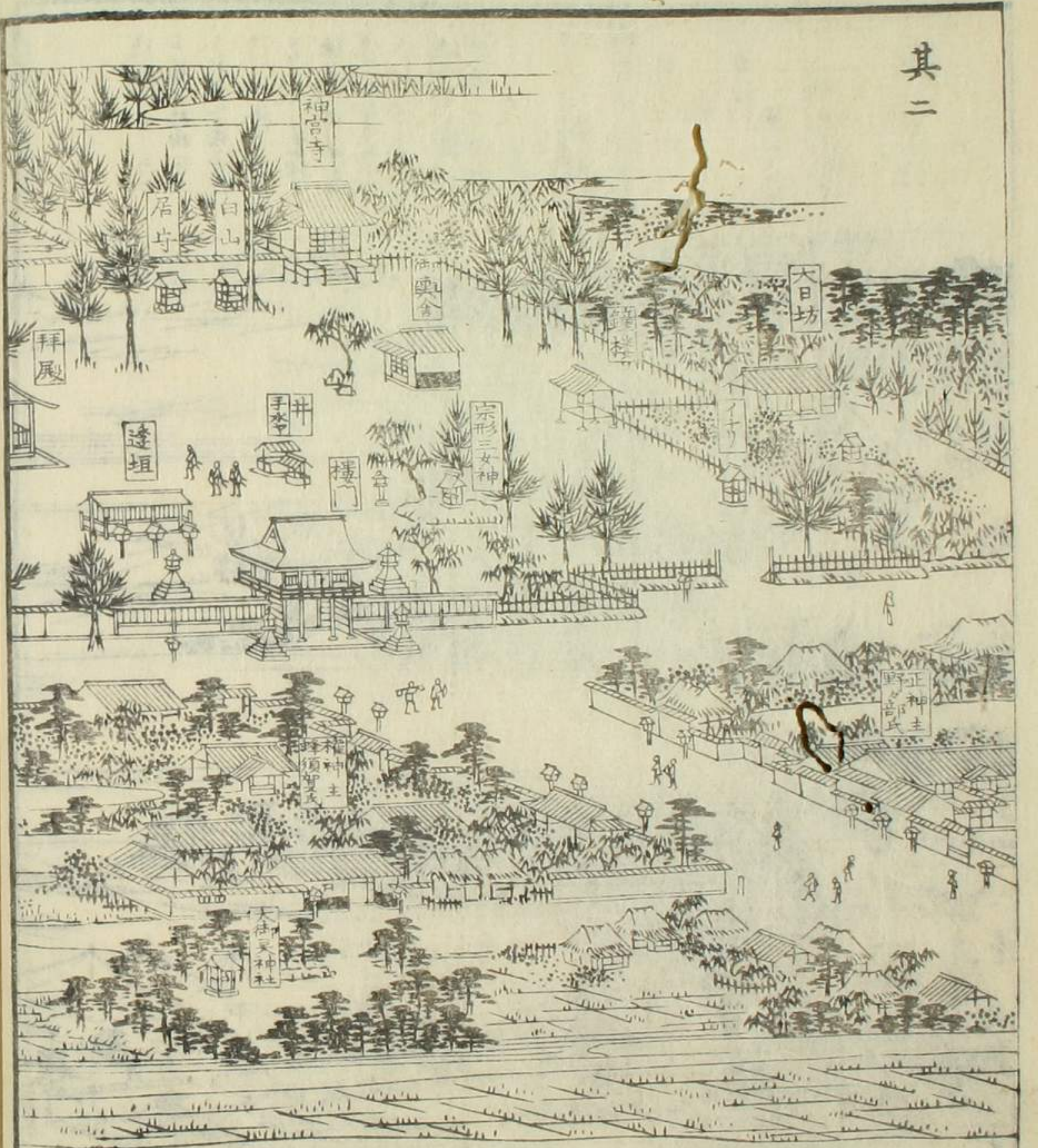
清れりしに
三株の杉樹あり
これらもあふれ
清み清み多ひ
まのよき 木津川
桐葉新中島
連秀留あふ
しりけにけし
橋津田跡乃
清津と出ひ出
信景





天保七年丙申不穩世の中
 祈年念書修り不府之
 世年一や不律言の
 沙鷗

其二



尾張のや
 大正の
 ささりひ
 民の
 後岳

より諸殿歳々小建つるまはり於圖上と照し居る

のよりにありて社家村小崇致は是は大穴持命の像石の刻を能登國羽昨郡に大穴持像石

神社とあり同例なり信小弘法の事石と稱して大師の故事とつるは陽うる君山家より

三本杉 社の内にあり大穴貴命とあり社小杉と神木 政所 社の東南の方にあり

大敷より五月十三日の神事二月 古陵 政所の北にあり大田主命の神陵と云ふ天背男命

末社 神明社 國幣三尊 天神社 少彦名命 司官神社 孫田彦命 熱田社 日本

とあり今社より 宇賀神社 俗に猪島 居森社 津島に居森 白山社 菅理姫命

八所御霊社 今社より神とあり 辨財天社等あり ○神寶 大鈴 大鳴と名

の紙の流るる公式令に諸事不修へ流の負致との已續日本紀以下の國史 司官神假面

一 正月の祭礼の政所小穴修儀田彦の面とも稱して社家の軍珠にも是次政事要畧の十

二月追儺の条に方相氏疫鬼と追入圖なりは假面方相氏小類一防りき古器なり

其外古物多く織田豊臣よ公まゝ 東照宮及び 性高院君より

賜ひ 制札終状の甚多し又嘉禄暦仁等の廳宣ともめ建武

弘安嘉元暦應等に公家式家より尚ほ寄進の流状を多く於奥

寺に持造より其神領も多く於りて今小退治あり ○例祭 神前

奉幣 正月元日宣判神主社中神前に於けりて三月節の神燈と撰す 御田神事 十日

日辰引神子方神の御友神ありて此れを津流形と云ふ 土餅封神事 十日

の祝まきりてとて行人又和州長谷まきりて二月修正の法と修儀高熱國の神宮ありて四月五日

修正と行ひ鬼と追入り俗説の難負と云ふ人なりてのやにりて修儀高熱國の神宮ありて四月五日

修正の誤りなり國府宮の慶小用ありて修儀高熱國の神宮ありて四月五日

の条三代史録の元慶元年八月の記に修正の法と行人まきりて吾妻鏡の兼元三年四月の記に

見たり 神の神事 今行ふ所は十日御田神の宅に社事集令し 難負捕の首途とて一社の

難妻とて祝儀の古妻ありて同日政所廳舎の尾本の神殿と建十二日成刻 祠友の宅に神の社事

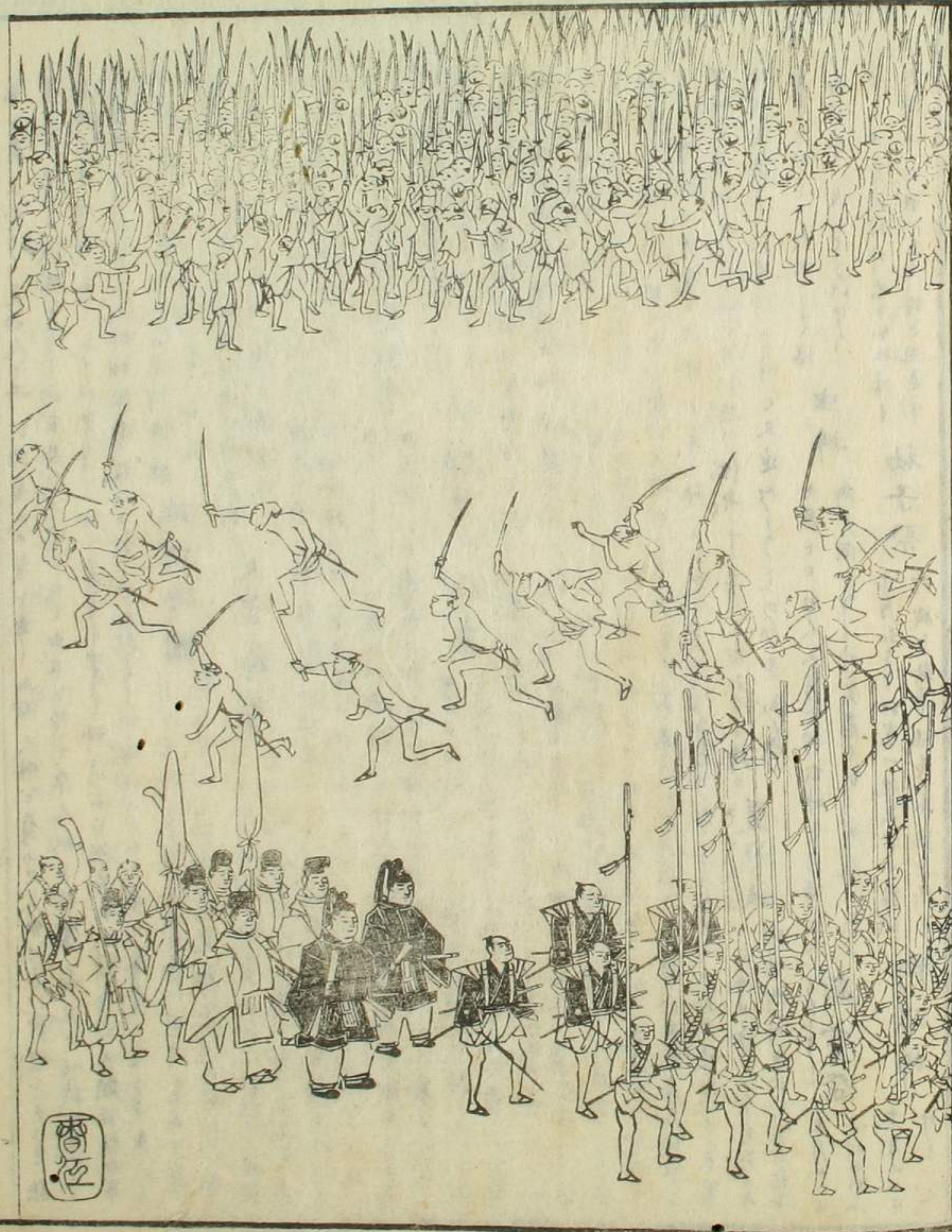
ありて政所へゆつる神燈と御田神子の料理の祭儀ありて同夜子刻 政所より祭の神燈とて

神の祝詞ありて同日十三日祝儀神事ありて是は神の祝儀神事ありて同夜子刻 政所より祭の神燈とて

恐初請し白紙の神燈連立の力大穴修儀高熱國の神宮ありて神の祝儀神事ありて同夜子刻 政所より祭の神燈とて

同日御田神 國君より神名代と云宮ありて神の祝儀神事ありて同夜子刻 政所より祭の神燈とて

同日御田神 國君より神名代と云宮ありて神の祝儀神事ありて同夜子刻 政所より祭の神燈とて



義と奉りて見ぬ人と辨ひ執履人の髪とを一五保人形と履つて人形の子に成るといふ。執履人の髪は、執履人の髪と云ふ。一五保人形と履つて人形の子に成るといふ。執履人の髪は、執履人の髪と云ふ。一五保人形と履つて人形の子に成るといふ。

一 万度祈禱 同日午刻神所御饌 同日午刻神所御饌 同日午刻神所御饌

大宮翁舞 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

奉射 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

大宮天御饌調進 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

御鎮座尸神支 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

初子祭 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

御煤拂 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

大宮神所
年頭大御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

神王 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

社僧威徳院 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

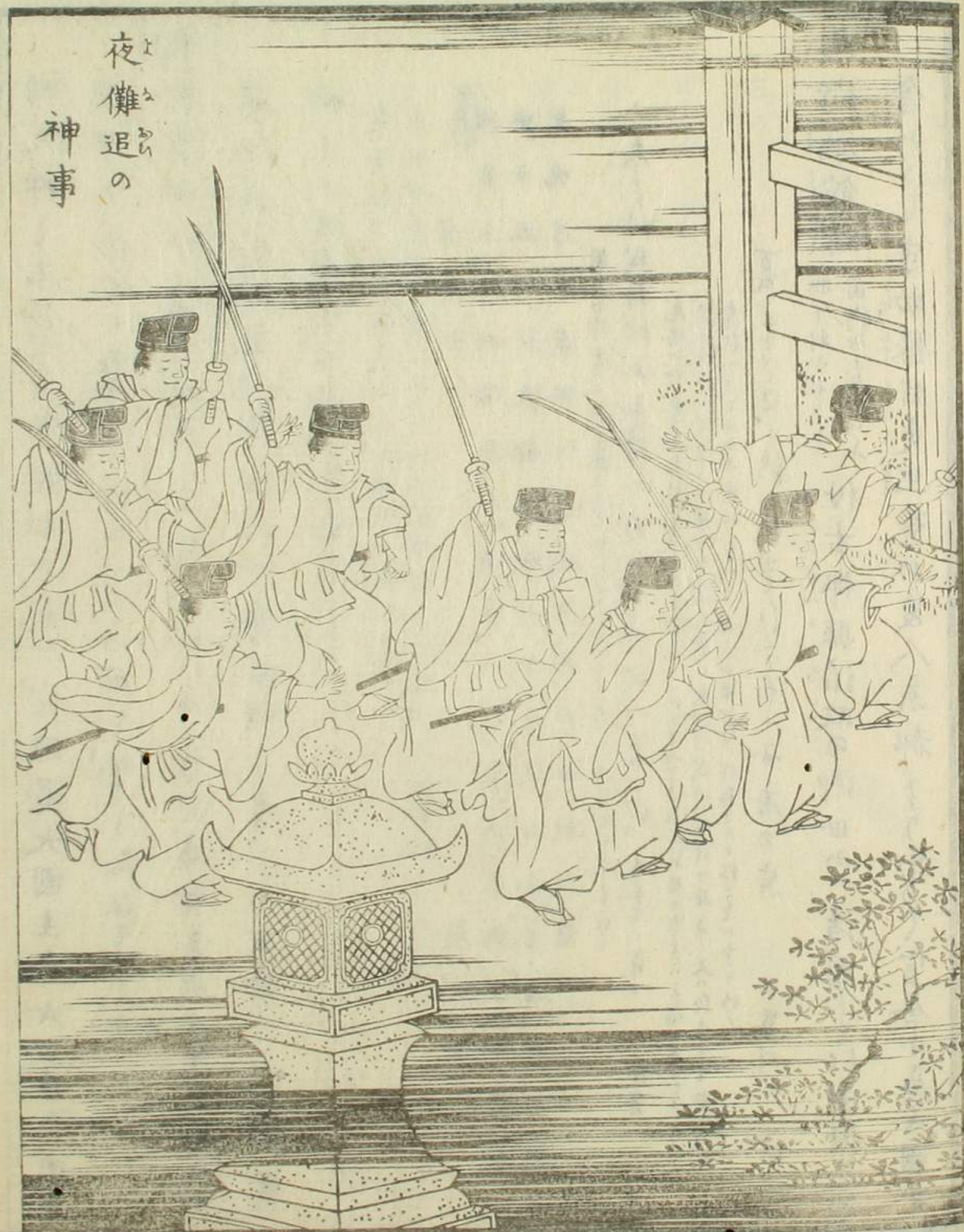
大日堂 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

宗形神社 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

延喜神名式 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

中島郡宗形神社 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌

本國帳 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌 同日辰刻神所御饌



香

形天神と志保より新撰姓氏録に宗形君大國主命六世孫吾田彦
隅命之後也とありや彼氏人が祖神と祀りし社号と云

大御靈神社 曰く別官とて御玉社と申次延喜神名式小中島郡大御
靈神社本國帳小從一位大御靈名神と云より多神ハ大國御靈

神と八重事代主命と合せぬ

舊事紀曰大歲神娶伊奴姬生兒大國御靈神
文德實錄曰仁壽三年丁卯以尾張國大御靈神列於官社

國府宮
祥雲五色擁雕甍入廟齋心已覺清尸祝有人傳祭
典士風從古進儼名歲深宮外長杉合畫靜階前衆
鳥鳴庠序遠蹤何處是遙思學士賦詩情

るれ我林付ふみ海の乃あり法代ハ新代まきり年一 信景

夏之そと 流れまきりるるふ府の官 露川

國衙廳館跡 松下村あり今 往古郡縣治政の御世ハ諸國に國府の館

舎わけて守助掾目史生等の友人系都よりわけて官舎小居て國中

の政務と行ひし日本書紀の 天武天皇元年の條に尾張國司守

小子部連鉏鈞二万の軍兵と平て 天皇の御軍小加らり

あつしるる尚ふの守れ古書小見しるる其後大室三年七月

甲午多治比真人水守為尾張守と續日本紀小志何よりあつし

大中臣朝臣清磨滋野朝臣貞王と云り四五十年の任限りて交

替せ 數百人の姓名ハ清書小見しるる中おも大江匡衡朝臣任國の

時温厚の政と行つしるる其のり頼朝公平氏と討て世と

治りしれは文治の末清ふ武家の守護地と置りり國司の威

権衰しりり空官のめりあつて政事と取らりり官廳小

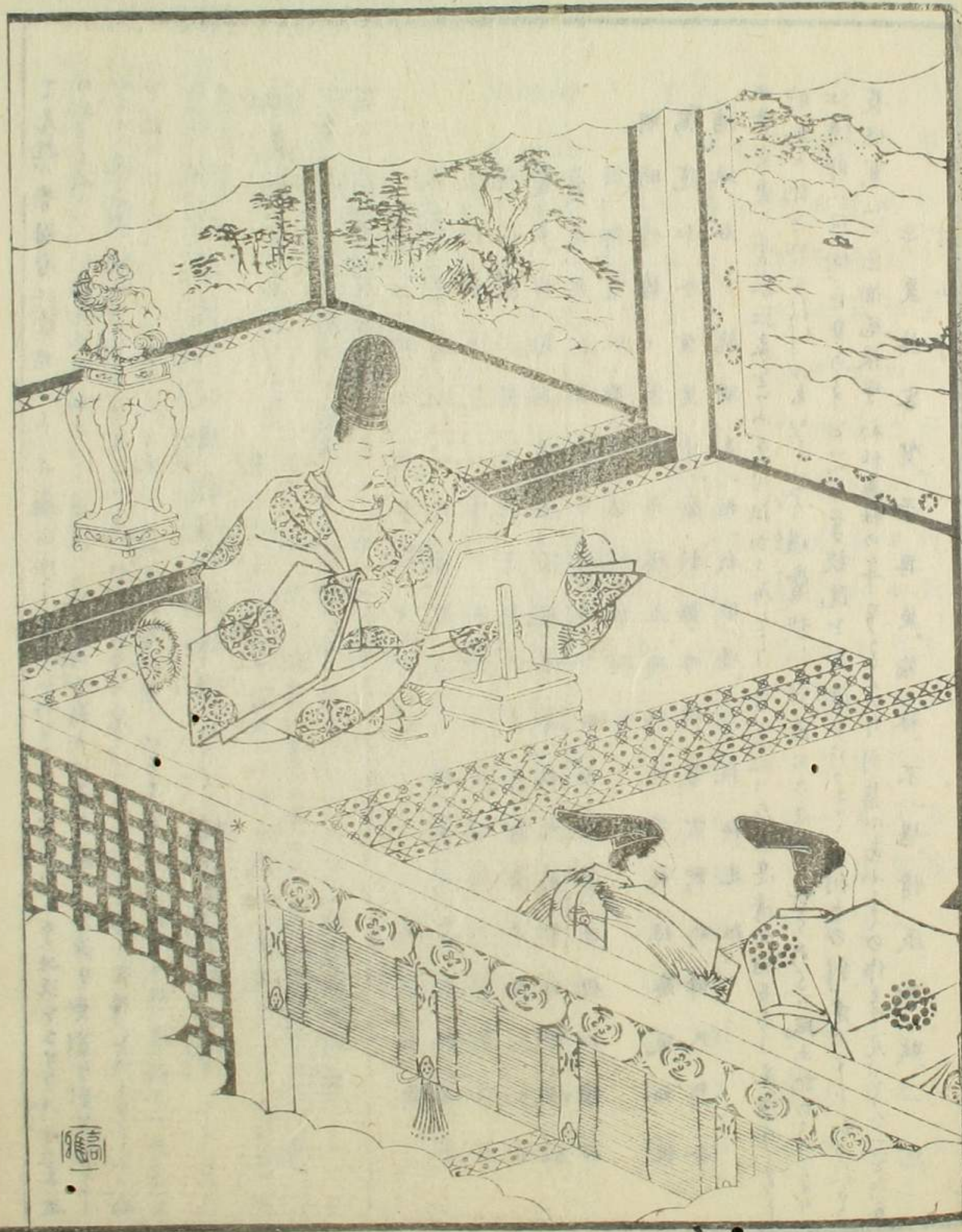
居候もせしりて館舎も廢りり古跡とありり

學校跡 國廳の跡と云地珠小廣く學校の地も其よりあえけれど今

其地定りり 法元或同姓年國志のりり 吾子中島郡松下村國衙と改て尾張

衙を改りり時ハ昔日國司の廳事明らけり 廳の地古往學校ありり 陽成紀小

紀伊國司言八月二十六日亥時風雨晦暝電激發震於國府廳中及學校并倉屋破りり



國こく衛ゑ學がく校こう
大だい江えい匡きやう衡けい講かう
書しよのの圖と



匡衡朝臣の和漢の大文をて文朝
野群載本朝文粹詩ハ新撰朗詠
集和方の後拾遺集續古今集新
續古今集中古哥仙新百人首
等の凡のより自撰する此の
書ハ江吏部集大江匡衡
家集ハコレ也

けし以敬のなきも、般若梵僧の印する親自在の舎像あり、禪師の牌子も舊く残る、
予曆應二年四月十七日、寂と示し、けしうん孤村、竹、静、小、疎、磬、声、ま、い、一、昔、巷、年、う、ふ、
ま、い、い、わ、れ、う、り、
云々、
云々、

稲葉驛 美濃路 東海道、豊田、取、より、北、小、口、に、上、京、の、宿、驛、と、東、の、方、清、次、
の、官、道、と、或、は、上、海、道、と、云、

より西の方、萩原宿への馬継、より、町屋、長く、連り、公私の旅客

常小絶、稲葉、林、系、の、い、ま、所、と、と、大、院、と、い、は、
身、世、記、行、
聖、の、名、の、い、ま、と、の、い、ま、と、い、は、
元、政、法、師、

伊奈波名神社 稲葉村、今、主、所、持、現、し、林、才、本、国、帳、小、從、一、位、伊、奈、波、名、神、と、
見、し、り、美、濃、国、厚、見、郡、岐、阜、に、ま、い、伊、奈、波、大、神、と、同、し、清、次、り、

金名神社 日、村、に、あり、本、国、帳、に、從、一、位、金、名、神、と、見、し、り、美、濃、国、岐、阜、の、稲、葉、山、と、
金、華、山、と、い、ひ、て、金、神、の、お、り、ま、い、と、同、し、日、村、名、と、い、ひ、り、禪、源、寺、の、山、号、と、
い、は、し、ま、い、ら、ん、

金華山禪源寺 日、村、小、り、臨、濟、宗、東、都、心、寺、末、永、和、一、年、九、月、大、清、淨、師、創、建、し、
永、正、九、年、勝、岩、和、尚、再、興、す、南、宗、は、り、り、の、大、刹、の、て、ま、ま、い、

寛永年中、將軍家、市、上、治、り、し、竹、尚、と、清、教、と、い、は、り、を、ま、い、親、老、の、本、像、た、ち、
天、照、大、神、春、日、明、神、と、安、置、次、又、本、寺、額、也、の、額、も、朝、鮮、人、滄、浪、筆、あり、

塔頭 寺室 行、基、作、の、地、産、善、義、牧、漢、筆、の、墨、像、其、の、唐、画、の、
古、幅、多、く、將、軍、家、の、拜、願、の、法、茶、碗、ホ、シ、小、多、し、

齋所権介成清 日、村、の、人、其、居、地、定、り、成、清、の、子、冠、者、清、道、漢、撰、と、い、は、し、
理、と、も、解、り、り、成、年、東、大、寺、の、大、佛、佛、を、い、は、し、に、父、母、と、共、

後、も、俄、に、心、を、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、
心、や、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、
上、入、り、け、い、烏、帽、子、と、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、
佛、に、て、わ、り、け、い、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、
権、者、と、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、
心、集、及、び、三、國、傳、記、お、見、し、り、ひ、権、介、成、清、の、仁、あり、其、法、子、と、い、は、し、
ん、せ、と、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、
齋、所、と、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、

久多神社 稲、葉、村、の、久、多、と、い、は、し、今、廢、し、て、微、こ、り、延、喜、神、名、式、に、
中、島、郡、久、多、神、社、と、い、は、し、本、国、帳、に、從、一、位、久、多、神、と、見、し、り、

天背男命窟居跡 日、所、に、あり、命、中、島、海、部、直、の、祖、神、と、い、は、し、
氏、の、を、祀、り、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、
久、と、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、

久田氏宅 日、村、に、あり、久、田、跡、四、郎、清、嗣、の、城、跡、と、い、は、し、
久、田、跡、四、郎、元、政、是、り、建、武、四、年、二、月、廢、宣、と、賜、り、し、れ、り、
代、々、相、續、と、い、は、し、其、廳、宣、に、今、所、具、寺、に、所、在、せ、り、

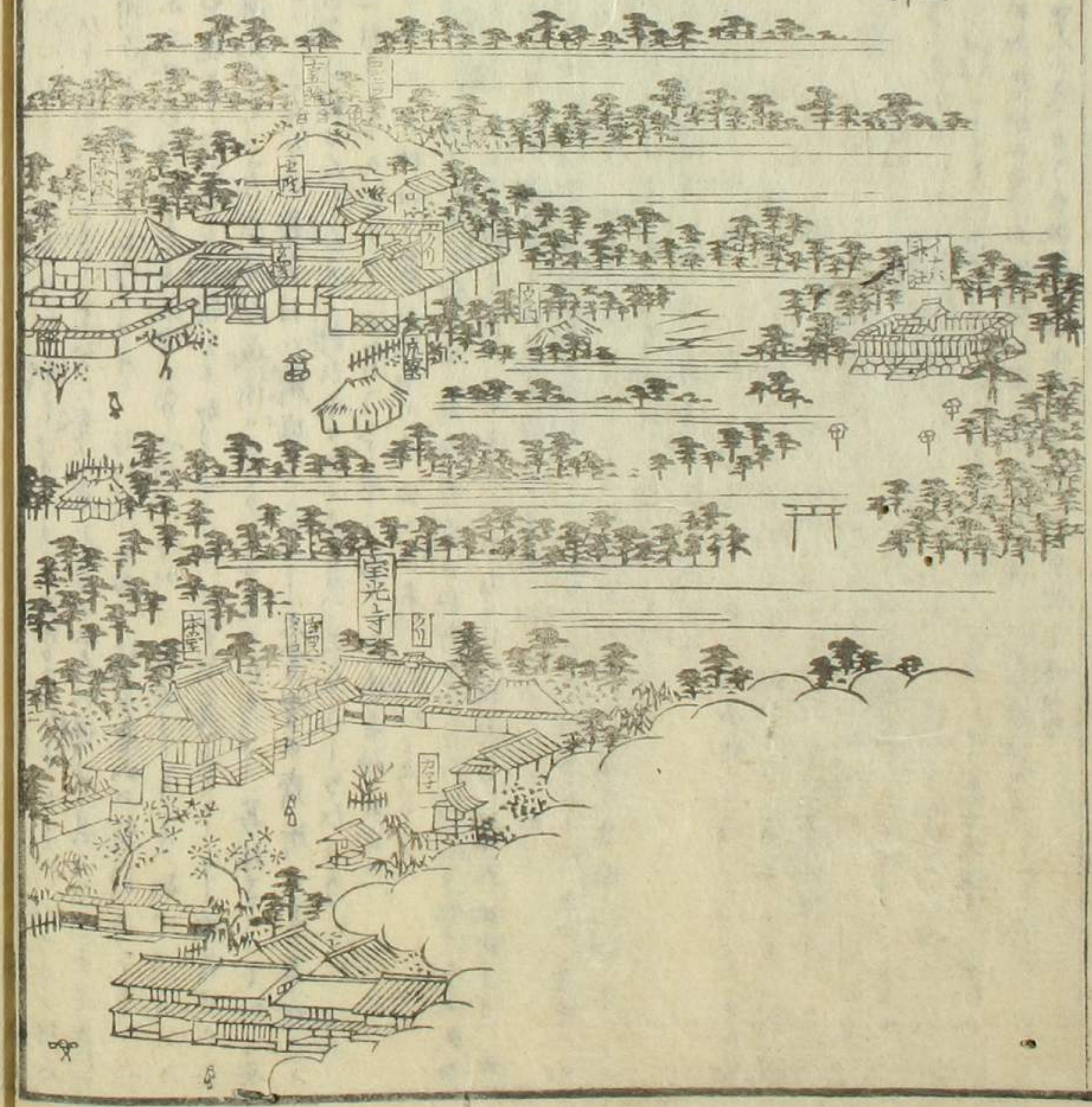
萬部天神社 日、村、に、あり、今、廢、し、て、小、社、と、い、は、し、
本、国、帳、に、從、三、位、萬、部、天、神、と、見、し、り、
村、の、ま、い、に、あり、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、

大光山專正寺 本、村、に、あり、一向、宗、東、派、京、都、本、山、直、末、九、と、善、提、院、と、い、は、し、
大、田、村、に、あり、て、井、之、口、の、願、と、特、願、と、い、は、し、
年、中、今、の、地、と、い、は、し、其、後、既、經、西、通、野、田、五、郎、正、春、の、二、
年、一、と、い、は、し、お、母、を、い、は、し、て、お、母、を、い、は、し、

長杜天神社 西、所、堂、村、に、あり、本、国、帳、に、從、三、位、長、杜、天、神、と、見、し、り、
里、人、の、ま、い、り、の、假、名、と、願、例、と、い、は、し、今、金、委、明、神、と、い、は、し、

禪源寺
 伊奈波神社
 金神社

隆慶元年享保
 三年戊戌十月
 琉使東行物玉の
 時尾西金花山に
 傍詩と作りて
 題来王子の傍
 不謂我山簇錦
 與風光此日与

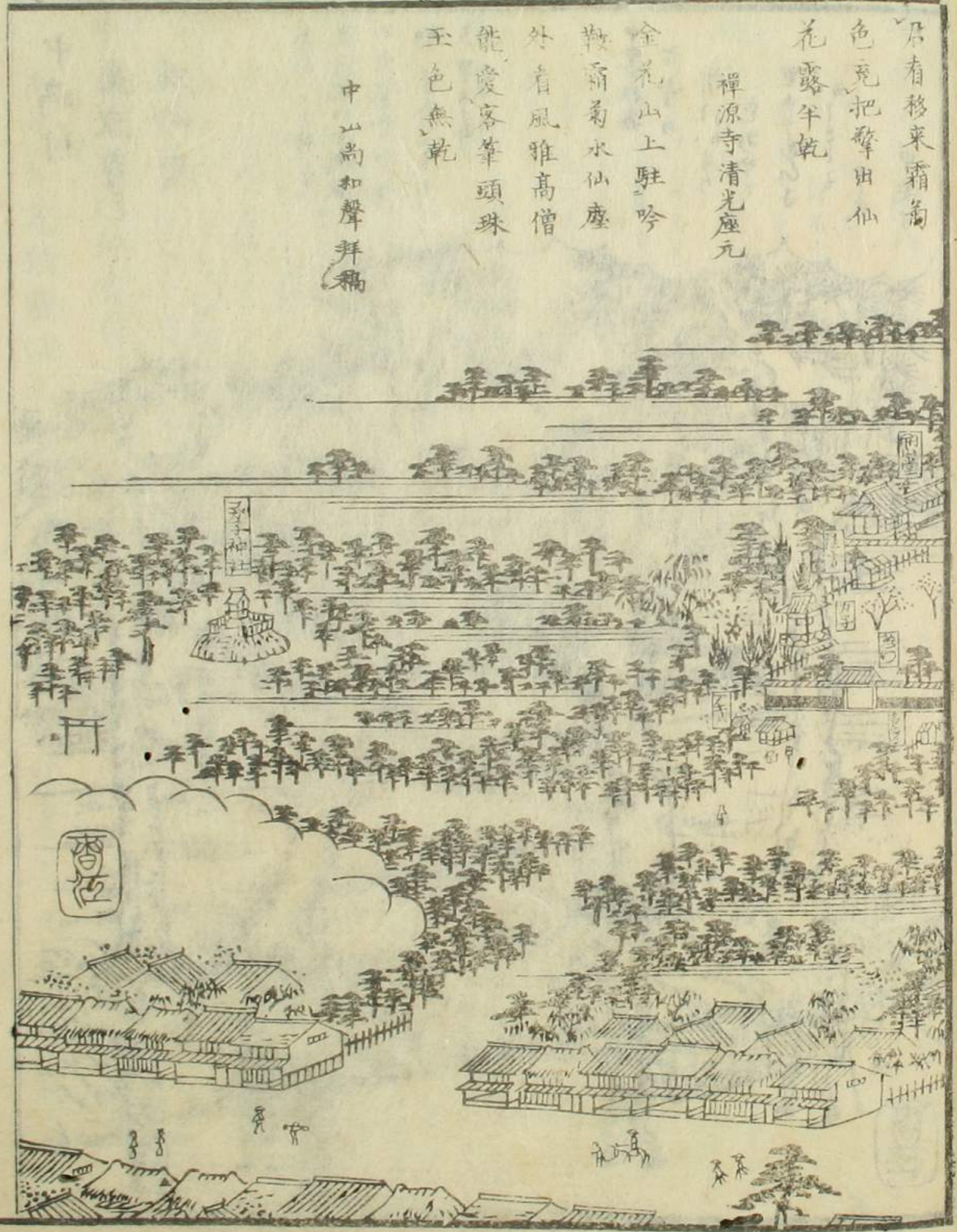


君看移來霜菊
 色竟把聲出仙
 花露半乾

禪源寺清光座元

金花山上駐吟
 鞭爾菊水仙塵
 外看風雅高僧
 能愛客筆頭珠
 玉色無乾

中山尚和聲拜稿



軍之由有沙汰被収公所領然而當時侯御所中頗依愁申之於
尾藤田畠者可付渡之旨今日被仰付西郡中務丞云

串作の里

起出乃の村より和名抄に中島郡石作久利とありとありの事と依いし定り
し原康正二年造内裡段錢并國役引付に八百五十文進士小二郎殿尾張國中島郡
内櫛作河室段錢とありはここの事

河室山觀音寺

串作村ありて浄土宗元保の曼陀羅寺未河室ハ舊き地名より源三位
類改高倉宮小啓し清國源氏攝のころより尾張源氏河室判官
代とあり

萩原驛

美濃街道の宿駅東の方稻葉宿より西の方起宿への馬継
あり町のうち長く農高軒をつつ移り賑りし里なり

王露叢

山名水十一年甲戌將軍家清上陸七月六日尾張國萩原宿とありて
此ふありて所とすけは萩原此秋のころの族のりしと云
身延紀行

萩原川

一名古川といひ萩原宿の西と流と街道小板橋と架せり川
むの木の川鷄沼川の舊流よりほ世川の瀬ありて起川と
本流とたれどむの川の流の流が砂ありたりとあり長流の

大川うれが所々に決りて流派敷道砂なり

續日本紀曰神護景雲三年九月壬申尾張國言此國與美濃國環有鷄沼
川今年大水其流改道每日侵損粟中島海部三郡百姓田宅又國府并
國分二寺俱居下流若經年歲必致漂損望請遣解工使使開堀復其舊道
許之
三代實錄曰貞觀七年十二月廿七日甲戌尾張國言昔廣野河流向美濃
國當于斯時百姓無害而頃年河口擁塞惣落此國每遭雨水動被巨害望
請堀開河口令趣舊流太政官處分依請
其後此川昔清少美濃各務郡の人とひ中島郡の人と爭論出来しつひ小及傷及ひ
殺し人死傷せし事三代實錄小見たり其文

吉藤里

吉藤村と
あり尾張風土記殘缺小吉藤山出脩竹等杉栢松等鹿兔

多頂上有池号吉藤池昔在神跡三段之荒玉築社於此池中每
秋供饗以入當時絶亦社之在可滅焉とあり今ハ鹿兔あり
の位に山もろくろりて松林などの廣くむの山の山に面彩り砂なり
又村の南に方に山中に修了地の砂も風土記の説も合ふは
三三の荒玉の社の傍に池も今にありて玉江とあり

玉江御厨舊地

吉藤村にあり神風抄尾張國玉江御厨とあり今神江とわきて
はとも移りたり文和三年四月廿三日熱田御神領日録小中島郡玉

韮江神社



石を
築
は
沖
鳥



江田畠十四町四段
三十歩云々云々云々

韃江神社目村 延喜神名式小中島郡韃江神社本國帳小徒一位韃

江名神とまふせり令神江明神と稱す名勝志小徒昔神切皇右三韓

青達山神江寺とついで曹洞宗三關村正眼寺

退治の後諸國子放生池を置

名産 阿古井村より出た水大く味化差の及大所あり一村殿く作りて下田井の中へ

村よりモヤレとして不吉の談

聖徳寺舊地 富田村あり名古在七間所の聖徳寺此地小うきしゆ今も富田の

聖徳寺と云ふを聖徳寺易地の後傍系立其旧地をちり

居りしと寛文四年も寺を洋美寺と名づけ聖徳寺の支院と次信長は美濃の寺

廢美濃山際も入道三とていふ寺あり今合あり一寺次に及く

信長記小曰信長卿の行跡 平手中勢が諫書も

用ひりたり一頃あり 近頃にかゝるうらうら

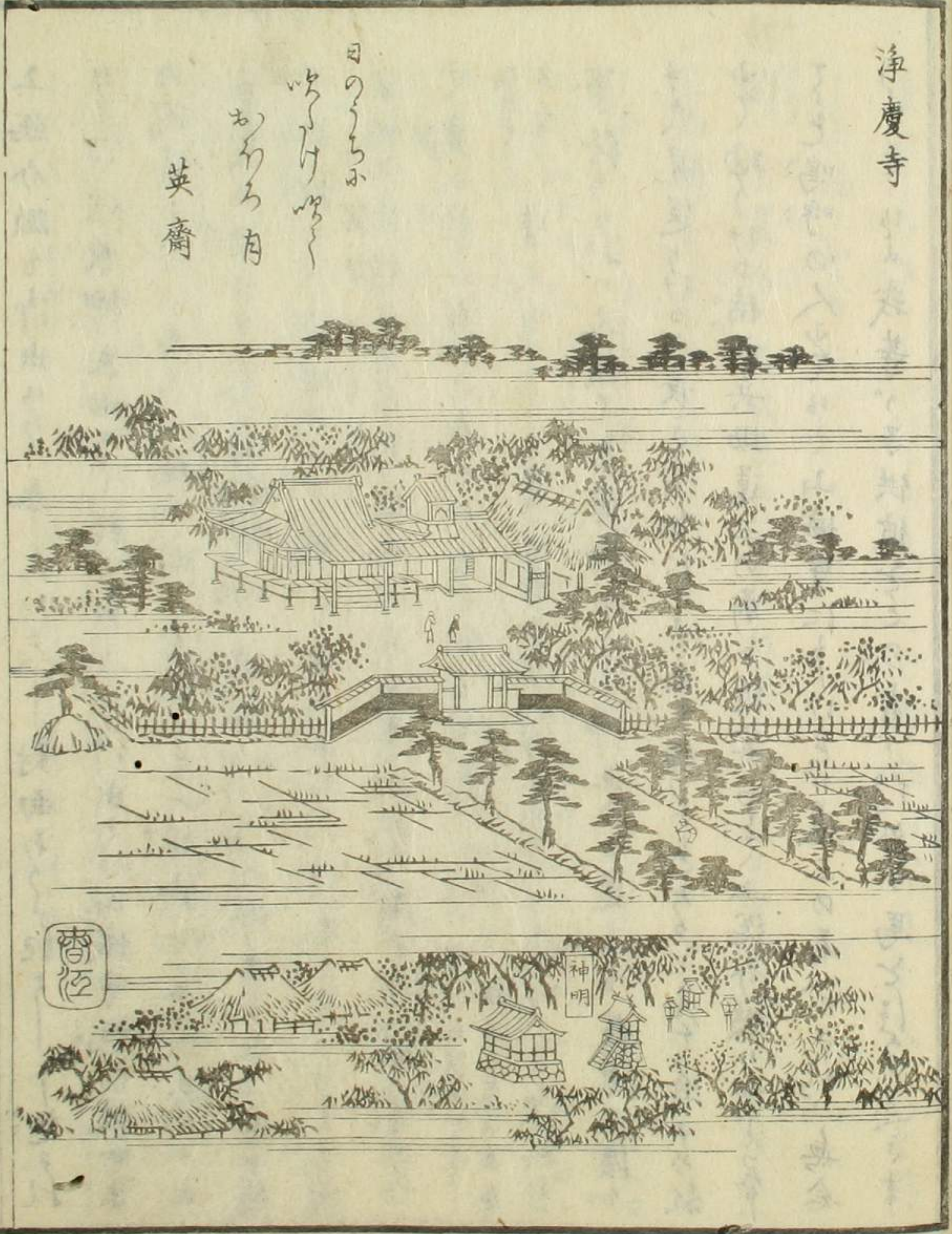
富後山城守が家の子ども山城守の前して信長卿天鳴呼の人々を

ゆき連々しやわひるるに或時道三祝儀 信長公嫁娶の

見泰のみ善悪

とくろり足むり小四月下旬富田の寺内聖徳寺まで出らん間

浄慶寺



日のくちふ
吹しけり
あけり月
英齋

香

上総介殿も津出り々本意たゞ一対面あつて越され
るは信長卿左右う約お色して津出り山城守悦び彼町末
の民屋小忌び居て上総介殿の来居り山城守と見ふ其日の出
立髪髪の結結やうきげ物胴印の類の明衣今又浴の体体常より遙小越
て異終りう津供の人々健う者千五百人津先より三間
半柄の朱鎧鎧五百本弓鏡炮五百挺為持寄宿の寺一御着わつ
て爰小控有べき式のおま小ひきせりひこれ髪とめはふおと
なけり結とまき皆人有未未べき事事の由やうにぞやわりるかくて津系舎
事終りなれば又頓て可有御出とて津えわ道三も萩原の渡り
まて見送りけるが長さ論とたゞ立て帰らとるを足て奥より款
少くゆりける猪子兵助道三の前小近寄アそ上総介殿は何とて
とと嗚呼の人人みてり山城守にゆけと道三の答答ふれば無念
うらまひよ我等が子供彼をとの者門外小馬とほ馬とほ

葉のうらうらとつひとて其ゆる人の目さかどおを
つと物りあうり

起驛 美濃路の宿駅東の方萩系宿より、系の方長流長流小善保名一
の馬継りう南の方富田村より町屋さくうらつとて驛店茶店小
らほら〜は流の旅人きあうり〜驛〜尾張風土記尾越山出茨尾越山山椒山椒穂等有名桂樹取之工家用尾越山藍櫃藍櫃之類云々今今那た那たひり且且尾越山
とつととつとひりひりののももうう〜ハハ丈丈とと尚尚村村よりより徹徹也也朝貢朝貢ひり又又諸諸ふふももああううり
庭訓往来庭訓往来に尾張ハ丈とわり名産名産うら富村を志志ハ丈氏ハ丈氏と孫孫なりなり家家ひりひりのの織工織工のの商
孫孫うら村名村名と織織を起起くくひりひりのの名名抄抄のの里里の名名々々〜
謂謂此此巻巻 起里詩 平巖仙桂
驛馬駿々勝長野吾人會集 詳茅舎記得從來小里
名魯論句中結商也
秋秋暮ぬ暮ぬいととあういととあう中急の中急のあうあうけ小田おけ小田おてておおすも 田中道磨
宝曆十四年甲申三月朝鮮人來聘の序起序起臥止臥止名の日日高高府府政政系系濠洲濠洲二百約の詩と作りて
彼地の彼地の草草士士南南秋秋月月小小勝勝りりをを秋秋月月日日二百韻の詩と作りこれこれ富富書書博博字字にに非非ずず推推ううく
これと作んこれと作ん急急辛辛〜いいまま能能窺窺手手ひりひり原原況況やや和和ままりりととやや短短篇篇ととりりててこれこれ小小勝勝りり
〜て彼二百韻全篇と因り前後前後はは序序して二十字と抄抄りり前前ののをを作作るる危危人人會會ととををむむ若若と
下飲下飲のの名名且且吟吟且且吟吟即即序序とと接接て濠洲濠洲小小政政系系濠洲又秋月秋月のの散散と序序上上小和小和秋月秋月等等
考考及及ししてて野野美美々々〜河河梁梁雅雅契契にに洋洋りりよりよりてて長長にに詩詩とと略略也

起川

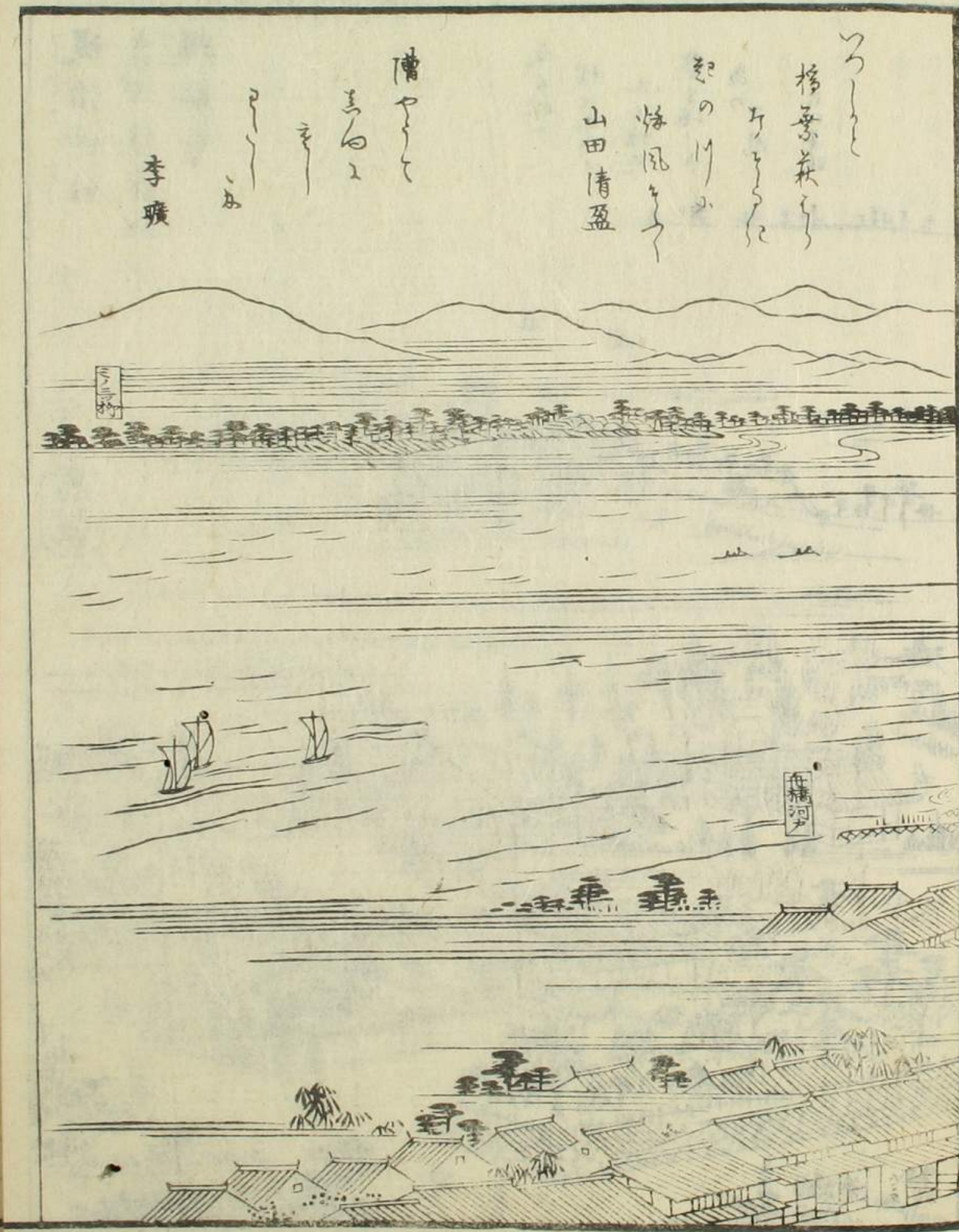


山晴春渡白鷗
飛綠水浴映
錦衣時望紫烟
縈風閣更歡尾
越早逢歸
中山茶邦錦



梧葉花
起の川
海風
山田清盈

僧
李白
李曠



性海寺

過性海精舍

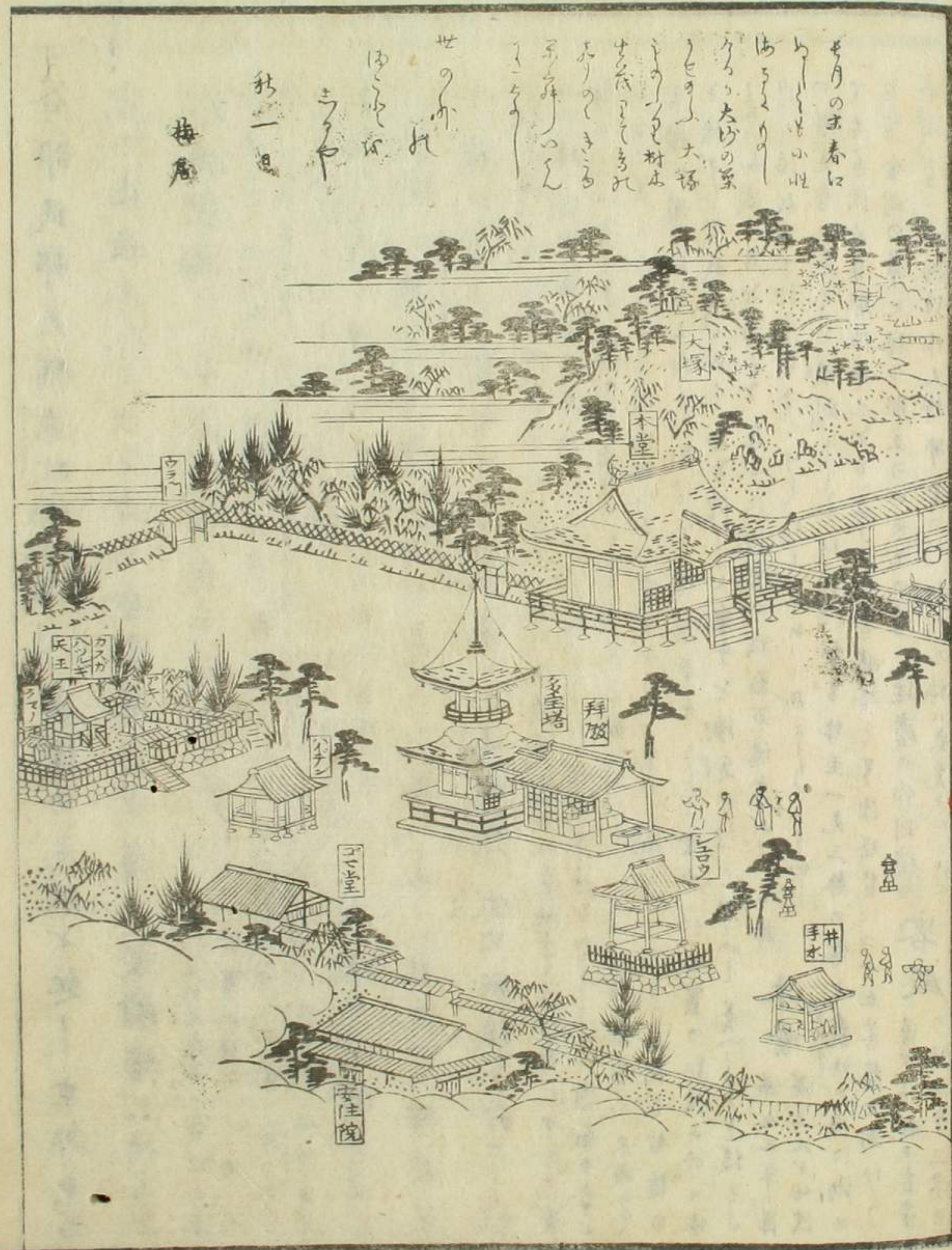
成親正太

祇樹蒼々梵
 閣深常無車
 轍映門侵偶
 華蓮社絕狂
 能猶使遠公
 同醉吟池潔
 綠蘋風臺影
 徑回脩竹畫
 成陰從君能
 聲交歡去定
 裡供園不流



世の介
 ほのゆゑ
 さしや
 秋一日
 梅庵

四月のま春に
 りしはひの性
 あららりのり
 ぐるり大砂の茶
 へさし大塚
 じりのつと村よ
 せははてしまれ
 ぶりのときも
 ちり舞いのん
 ーんちり



谷部民部大輔源政後祝髪奥復の志願と起一京都東岩

倉の良敏上人と力と合世金堂灌頂堂護广堂鐘樓山門等と

營建次依て良敏と中奥の岡山良敏字の寂思熱田大宮司の家

深廣より本州の浄心濃州の照寂天台と並び祝勝寺の大園に從て真言

教と受け東大寺の住持圓照の室と設て戒と受け律と受ふ及び蜂須賀直季

寺と開創して宗義と傳ふ本州の密教と良敏の法嗣浄胤上

良敏より作りて姉と次委しく本朝高僧傳出たり

人の時 後宇多帝の勅を蒙り弘安三年二月廿八日僧衆五

十餘口として蒙古より襲来一異賊降伏の秘法と修せしむ

大て代にの位傍持多う多う他の言傍多當きに未地する幸中の中も八事

山の諱忍律師或内其伴につきて来りに位傍持詩とを忍教十首と

作り一いま年十六の弱傍うらふ名を類ひ位傍持衰且戒りて

汝年若くすうり詩作のめさ小業と止りて夢回と解ら長谷智積の

官僧に備らに至らむとひけと清忍覺尔て堂中に安置の弘法大師の像

と指さして我彼がゆくたと修して衆生と候安せむと思ふと善一と後

してか滅の名と得りと當ちに活字の板敷万億まありも諦

忍の活板とすにとんすりて作りりとありもも諦

の善定寺のたそと撰刻しりも阿弥陀記勢至一先三輪の像と龜塔の内に納め

て安運次又尊勝陀羅尼ともこりの尊勝塔と号次塔背に二十五菩薩と画けり

巨勢金剛の華之塔の服立の四天王の像の運慶の作別壇の

地蔵より安阿弥作又持佛堂の阿弥陀本像の善定大師の作

客殿通見法親王真筆

扁額と護摩堂宝藏庫裡書院廻廊唐門等其外の諸宇

巖然り愛添塔境内あり二重の高塔あり弘法大師作の愛添明王の大

像と安置すりと坐に安ますりと後の塔中に

うりす明王忿怒の面容儀形威靈ありとあまりと感應勝まりと廿人鐘樓

跡不考敬一係日小の男女群とうり又塔の東にとまにおまりと鐘樓

建名年中の走まり其傍清ら港八天四年中兵賊奪ひ去り伊勢の安保津の

後醍醐天皇元弘

元年七月十八日

同一通

後光嚴帝文和

二年九月九日

院宣二通

共小年号不詳

尊氏公祈

後醍醐天皇元弘

二年七月十八日

同一通

後光嚴帝文和

二年九月九日

院宣二通

共小年号不詳

尊氏公祈

後醍醐天皇元弘

二年七月十八日

同一通

後光嚴帝文和

二年九月九日

院宣二通

共小年号不詳

尊氏公祈

後醍醐天皇元弘

二年七月十八日

同一通

後光嚴帝文和

建武三年

正月六日

同制札

建武三年

九月十日

直義公制札

建武三年

六月七日

北条時頼證

状

弘長二年

三月十日

異賊降伏御祈

禱證狀

蒙古の異賊降伏の文書弘安三年二月

廿八日尾張國

中島郡性海寺大書

熱田大官司寄進状

弘安七年

十一月九日

尼尊如寄進状二通

應長二年三月廿日

沙弥唱叶留記

正嘉二年

六月三日

尼圓日寄進状

嘉曆三年

九月五日

織田大和守達勝證狀

享禄三年

八月十八日

織田大和守

達勝證狀

文明十八年

六月四日

長谷部系圖

田敏定證狀

應長二年三月廿日

沙弥唱叶留記

正嘉二年

六月三日

尼圓日寄進状

嘉曆三年

九月五日

織田大和守

達勝證狀

享禄三年

八月十八日

織田大和守

達勝證狀

文明十八年

六月四日

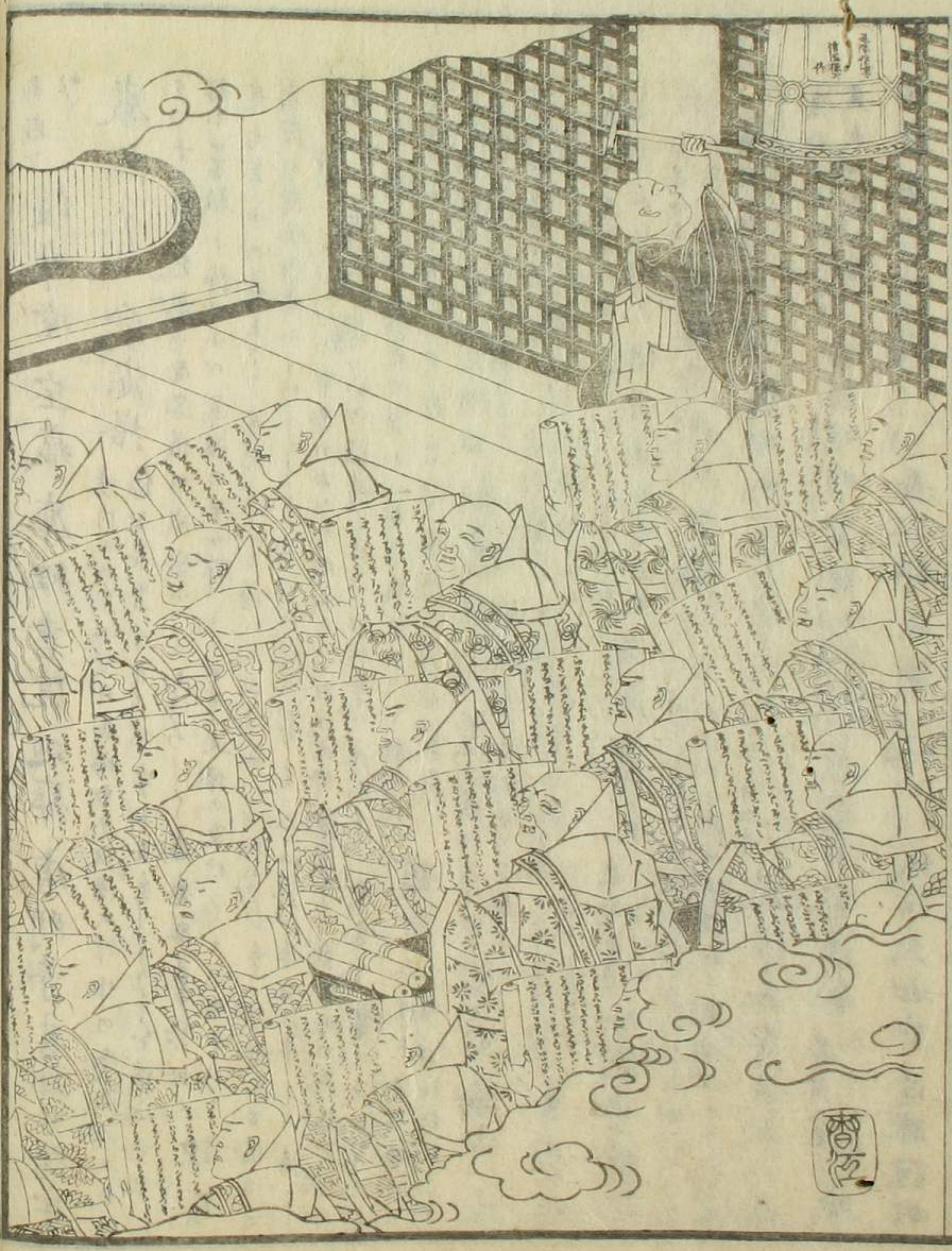
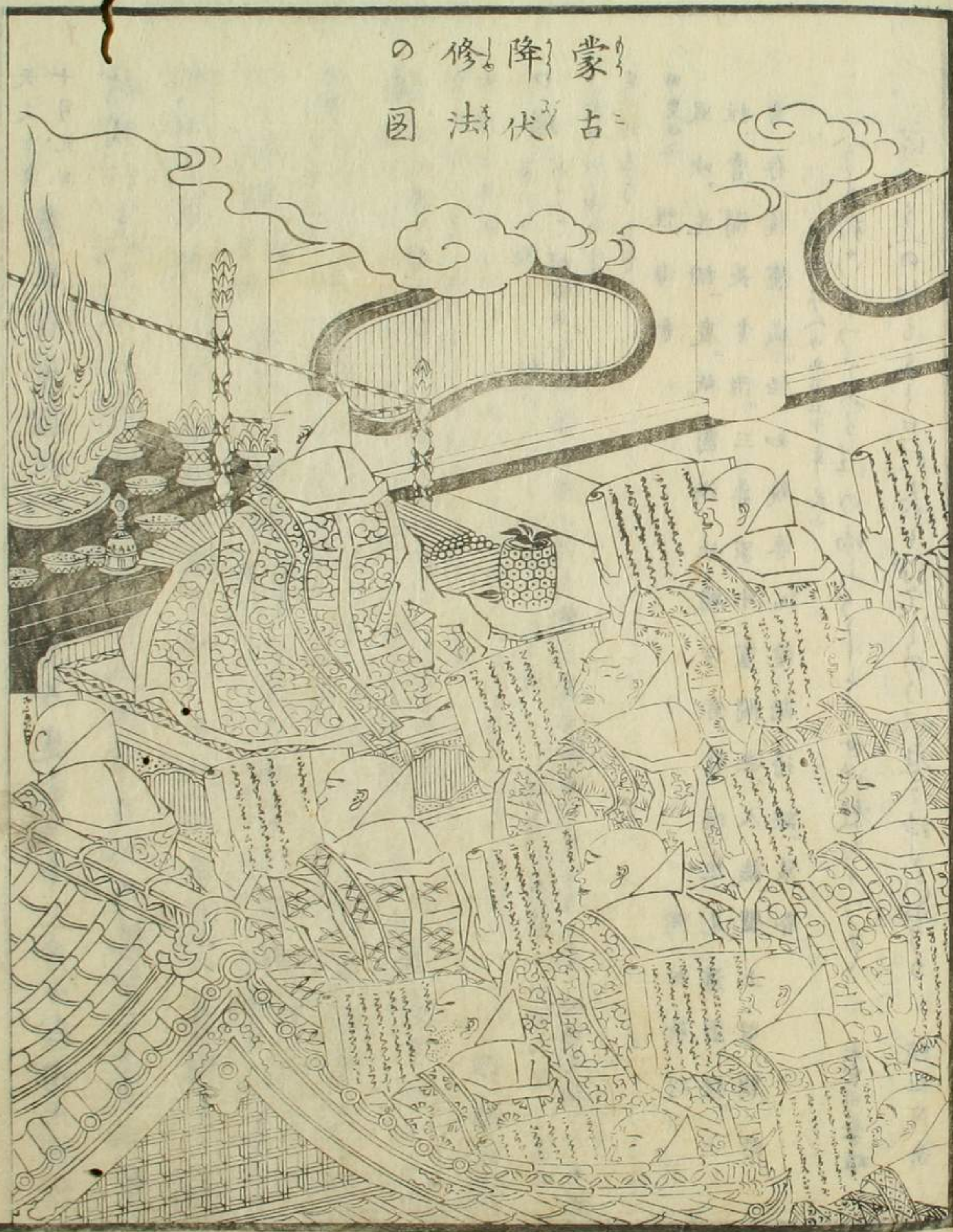
長谷部系圖

田敏定證狀

應長二年三月廿日

沙弥唱叶留記

蒙古降修の
古伏法圖



天文七年 十月九日 豐臣吉房證狀 文祿四年 六月 其外建武三年二月の宮内大輔終

状及びび是て二十餘通あり又弘法大師自画の像とてり不動

明王愛深明王五字塔の三幅も共小大師の筆あり其像芦二鳥

の二幅對 雪舟 葺 虎二幅對 相阿 山水人物等の屏風 雲谷 永徳 華 同 華 花

筆 文明十四 太鼓 朧の裏に永正十四年丁丑極月十三日張之碩王 異賊降伏の半

鐘 銘支へうて四句の女わり信濃縁國次作とる由るたかありて 金剛力士の面

孝春作とる仁王の破さるる一昔仁王門もわつてカ士の 性海双圓

の塔 石の五輪ありて弘法大師の作あり石の面一に種字と彫其下の石に梵字左右の

号起まりとて 性海の寺

風吹花樹度祇園満地晴沙有履痕迹見浮圖標一

柱曾開長者附三尊塚中靈閣無人識壁上海留題尚

自存掄攬感經知幾卷山僧誦得課晨昏

今も松のつらつら法のゆらゆらとて世に教たうりて 大宮司李雄

塚のうのねもふとせれおとせしめを神としりて 植松茂岳

長谷部氏宅址 同村小川にありて長谷部氏の祖長谷部氏に傳説あり 清和天

りて代々大塚に住居源政晚年薙髮して唱叫とて長谷部政春入道明阿

とて明阿の孫長又三郎持信の頃より長谷部と名を長と家苗とす前田侯の長

臣長九郎を耐連とて其末孫の千代氏も係起及ひ

千代氏御園 今千代村とよむ大神宮の神園ありて千代氏恒貞とよ人つらと

所蔵の延文六年三月八日の寄進状に尾張國千代氏庄内永吉田地之事云々あり

千代名神社 同村ありて今明神社と稱日本國帳の中島郡從一位

土宮大明神社 北山村にあり生土神とて杉野天神とよ社あり是本國帳

稲藁山桂林寺 七ツ木村にあり其古名古屋七ツ寺とよむ七ツ寺といふ

大中臣安長塚 同村にあり二條院の御宇應保年中大中臣朝臣安長當玉の守りて

寺と建まるとして其人の墓と爲て香火とにむけしが今ハ廢とてありて其

長ハ古大臣清磨六代の孫齋官助茂生の七世の孫神祇權少祐大中臣能兼の子

群書類從の大中臣 系圖にあり

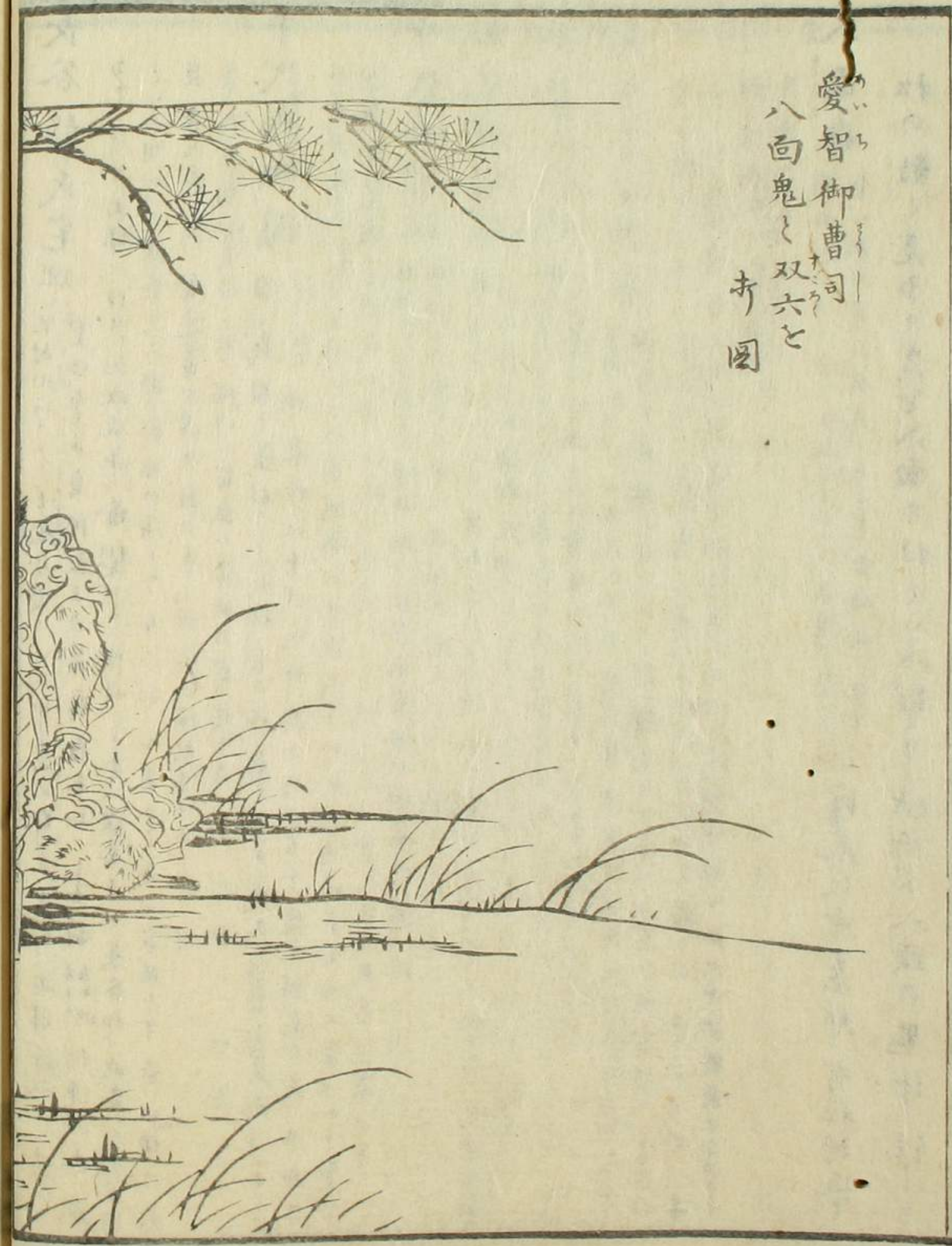
面森 有松村にありて小社ありて八頭鬼と云ふ 隆虎に中島郡有松村近

松の數く凡ありとて八面の杜とよむ一は所ハ八頭の鬼神といふ



畫院佳清寺光
稻原

愛智御曹司
八面鬼と双六と
赤圓



愛智御曹司といふ人ハ鬼ト雙六して勝り後鬼非ノ力にて
人民ト怒り其子孫ト成て人ト成て進む神ト成りて崇りて
一祠と建祀り侍りたりや凡村里に侍る口牌のたぐひ多し愛
智下総守源義成則武を司とて右衛門尉範成左近將監義保等
其の愛智御曹司と成り子孫も其の有松村小わりたりたり
按らに 仲哀天皇の御時天國より日本と美びとてまづ塵輪と
いふものと成り其より鬼神のめく身の色赤く頭ハツツて黒
雲にのり塵空と成り来りて日本にあり人民と成りたりたり
の 天皇其より侍り自ら御幸ありて十善の御位の
らりりして塵輪と射殺りていひて八幡愚童訓に記する八頭
鬼の故事によりていひ侍りる里俗の物語なり

益田森

益田村にありていひ侍りてまづの神といひていひ侍り赤澤まつ
院にあり侍りされど彼まつのもれいひ侍りていひ侍りていひ侍り
まづの神といひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍り

益田山加納院

同村小なり真言宗長野村石徳寺末末なり東源寺といふ大地六
建といふより万徳寺所蔵の賢却千佛名経の巻末に永正拾四天丁丑霜月廿七日
益田寺感忌大室坊書之と記すなり小院ありて古雅なり梵刹なり

東源寺

遊益田加納院詠古 喬松老懐人野水流
東源不可極蕭寺易成悲訪古 喬松老懐人野水流
紅娘名未没白馬迹猶留舊事憶誰問 稻花四面秋

馬橋

同村にありていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍り
ていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍り

東源寺

同村にありていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍り
の用水と成りて大開と成りて水と成りて八月の夜に侍りていひ侍り

増田右衛門尉長盛

同村の人秀吉に任て五奉行の一人なり太閤記に増田石田ハ州
の増田右衛門尉長盛ハ其の長子なり其の長子ハ其の長子なり其の長子

中莊山無量光院満願寺

中莊村にありていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍り
長野村石徳寺末 ありていひ侍りていひ侍りていひ侍りていひ侍り

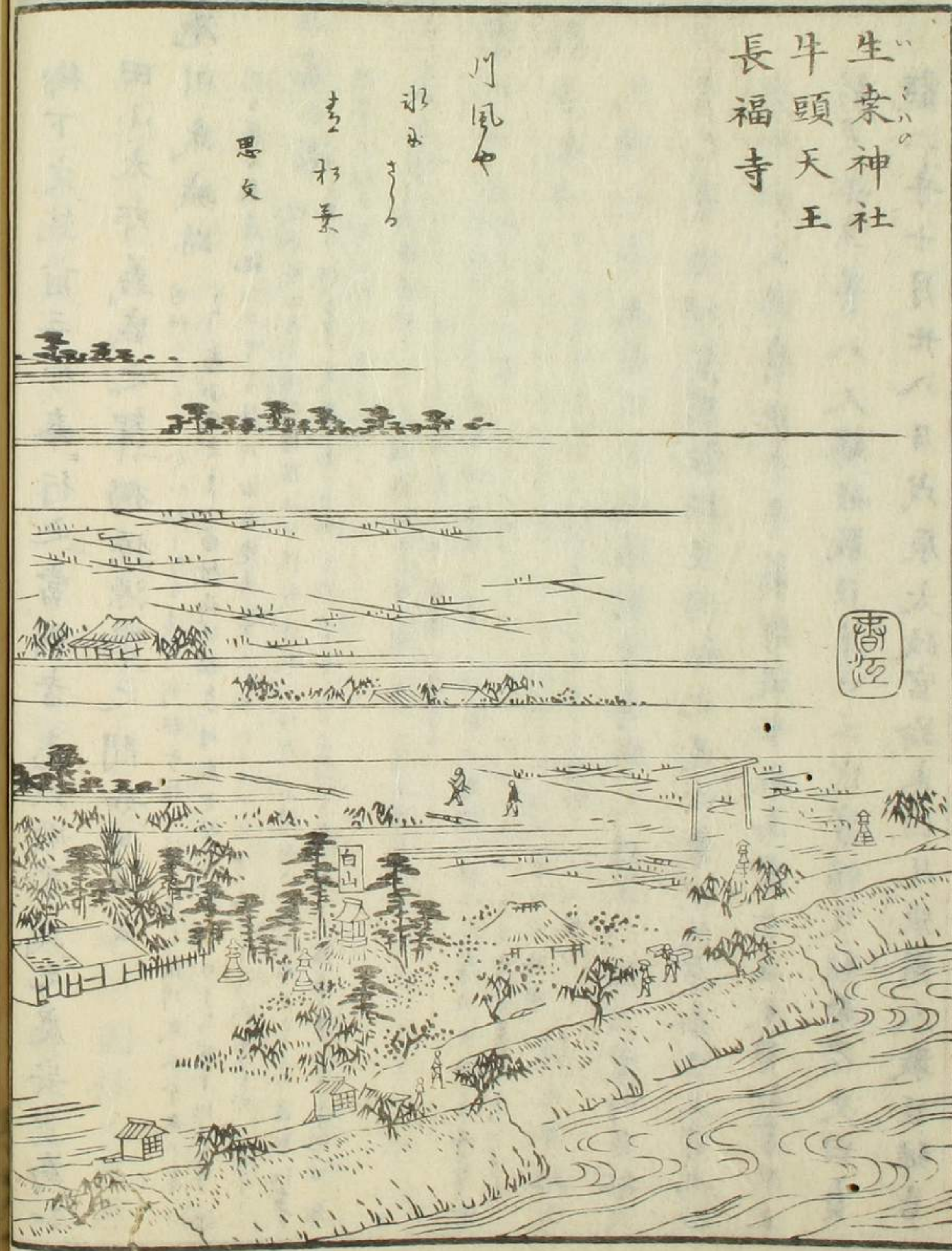
天平七年行基菩薩の開基より其後天曆四年の兵乱の堂宇
悉く烏有となり本堂護土堂の少くも達仁二年沙汰行西
再建し堂宇をより支院十二坊と區々や舊規に復せり
小水祿の所より漸くかち坊廢し本堂一字と無量光院の少
くも其餘の堂宇も悉く古跡となり康正二年造内裏段錢
并國役引付の等持寺領尾張國中庄段錢よりりやく足利家
の菩提寺の領地なり其庇陰する其頃ハ疎の盛なりが彼世
衰へてのらひたりたりなり ○ 本尊 阿彌陀の大像ハ本堂に
樂寺あり右三の寺のなき三像ハ一本に取らるる古雅なり
四分寺の全盛なり其の古像の所に取らるる古雅なり
動明王 弘法大 矜羯羅制多伽 同 弘法大師像 自 不動明王 運慶 毘
沙門 同 十一面觀音 師作 大手觀音 同 不動尊 矜羯羅制多伽
三幅對 妙澤 涅槃像 一幅 裏書ハ奉新造涅槃像一幅奉中蘇滿額寺常住
年二月十五日堂津原尾公大地主了阿彌陀佛と有りこれ刻千木下長者の母己安と
西へ入る奉徳と有り其目寺の什宝と目物有り画者ハ北殿司ありといひ

五大尊 一幅 享禄五年良 愛染明王 弘法大 辨財天 同 望佛太日尊 同
田阿彌製華 師作 華 望佛太日尊 同

三尊 阿彌陀像 惠心僧 兩界種子曼陀羅 緋紙金泥 幅 性威法印肖
都華

像 伊藤右京之進肖像 幅 渡唐天神 幅 活板大般若經 三時筒裏
小應安六

享安五十月日宗華 畢より其介ハ西水 塔頭 滿辰
年改より起りせんといふに其わらありて之に於て己巳年十月十四日
ありて一二人の友法ひたり侍法儀の侍たりあがりてさしりて
りて四の面あり細説ありありて之をわらありて之をわらありて
里まのの聖なりと云ふに之にゆりて之をわらありて之をわらありて
四山東原より起りて之をわらありて之をわらありて之をわらありて
たり其名跡ハ他處ハ一の草堂よりて之をわらありて之をわらありて
まのの表にむすむす計りて之をわらありて之をわらありて之をわらありて
まのの表にむすむす計りて之をわらありて之をわらありて之をわらありて
額つき奉りて之をわらありて之をわらありて之をわらありて之をわらありて
けりて無量覺体無邊德瑞坐蓮花法界宮殿百宝莊嚴隨念現慈光所照破塵蒙院に
意てりて之をわらありて之をわらありて之をわらありて之をわらありて
修の涅槃聖像ハ貞治七年二月十五日堂津原尾公大地主了阿彌陀佛 寺附のり書せり五太
享禄五年大山某作りの筆付りて良田所開製描りてりや活字の大般若經も
りてり 傳承せり中阿彌陀像と云ふに其の南の極まりてり之の
安立ハ何れの子孫今村民と云ふに其の南の極まりてり之の
解の聖像ハ之の極まりてり何れと云ふに其の南の極まりてり之の



生来神社
牛頭天王
長福寺

川風中

水

杉景

思文



敢臣宗貞等毆殺宗貞兄敢臣繼雄云云國司斷而言上法官
覆案皆當斬詔減死一等處之速流

坂手神社 坂田村ありて今天神社と稱す延喜神名式の坂手神社本國帳に従三位坂手天神とあり

鹽門天神社 鹽川村ありて今八幡社と稱す本國帳の從三位鹽門天神とあり

紫烟山願應寺 口村ありて本郡東部を治す本寺と曰部成村ありて心宗寺とあり

賣夫神社 延喜神名式小賣夫神社本國帳の從三位賣夫天神とあり

伊香色雄命の沖子大咩布命とあり

屯倉舊趾 三宅村ありて和名妙小島郡三宅とあり

日本書紀曰武小廣押盾天皇元年獲我大臣稻目宿禰

祢豆遺尾張連運尾張國屯倉之穀云云

生桑神社 東郡の境ありて今生桑神社とあり

氏錄小的臣建内宿祢葛城襲津彦命之後也

今伊勢の内宮外宮とあり

牛頭天王社 同村ありて今津島小幡天王とあり

元宮とあり

此地大石多さうらに三尺五寸ざり

素蓋鳥尊の清足跡あり

例案正月廿六日

大悲山長福寺 同村ありて真言宗帷子派村蓮花寺未だ千手觀音あり

同村ありて真言宗帷子派村蓮花寺未だ千手觀音あり

同村ありて真言宗帷子派村蓮花寺未だ千手觀音あり

同村ありて真言宗帷子派村蓮花寺未だ千手觀音あり

同村ありて真言宗帷子派村蓮花寺未だ千手觀音あり

同村ありて真言宗帷子派村蓮花寺未だ千手觀音あり

三宅天王祭
一時上臈

四月廿二日社人大鹿氏神傳を
とくし律正の天王一統とて日
一月の由社の社人神傳の神
かして里三重三人とてさうく
務ひ兒を執りておぼせま
うて世人を誨り行列りば
天王の神をあらわす神ふと奏
一は人のあはれとて神傳
の式ありしを一時上臈の
つひにそしるべきに
吉河ひをあらわす一時上臈
之



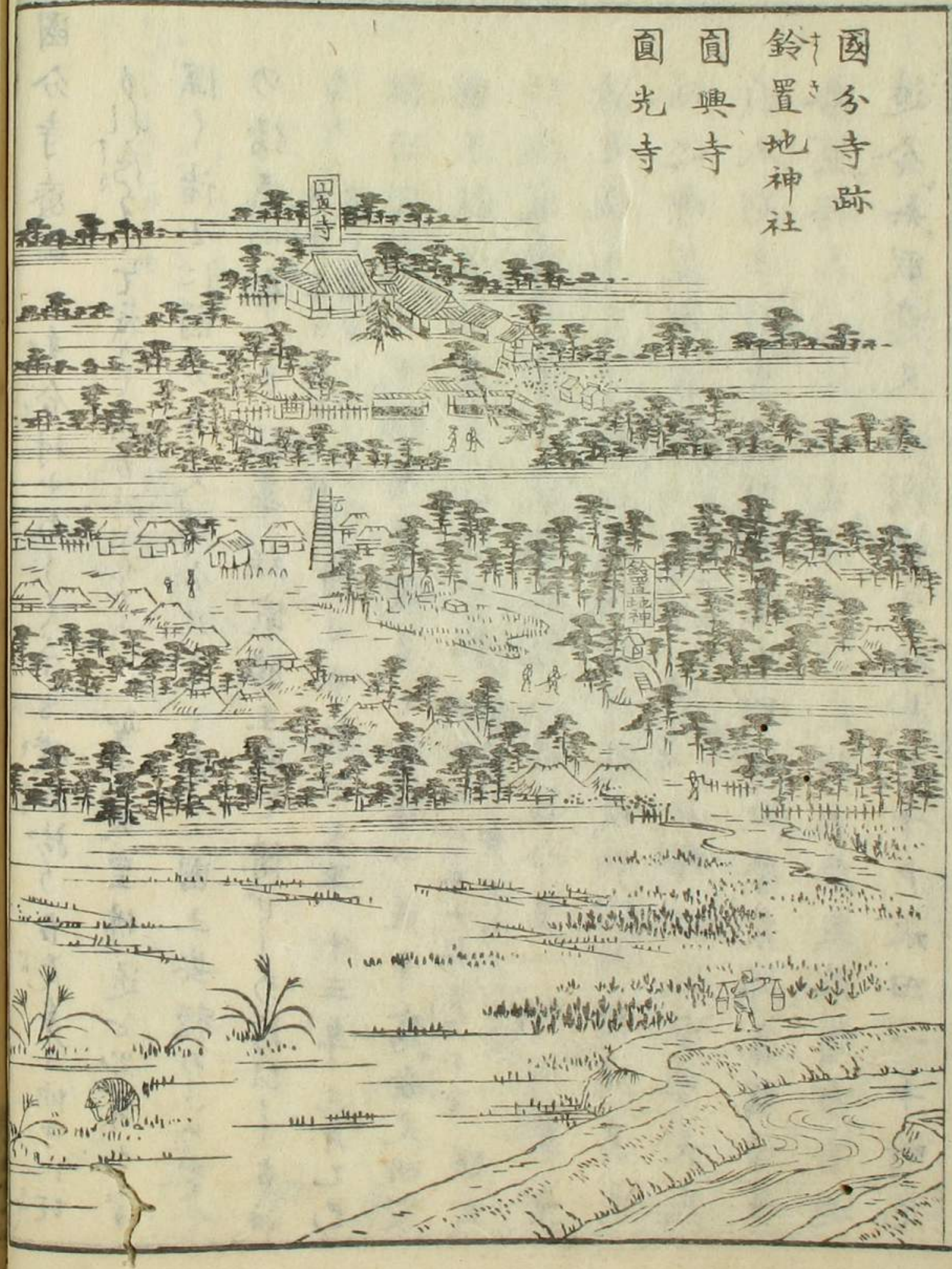
國分寺廢跡

矢合村小ありて今も礎石跡あり古瓦多く地中に埋
れ居りてとて生れり其古跡と存り 聖武天皇佛道と崇りし
際く諸王に國分寺又國分丘寺とて國土安穩のしり小多
くの僧尼小命し法華經寂勝王經と講じり跡ひ一古跡
あり 扶桑畧記神皇正統記 續日本紀曰天平十三年三月乙巳

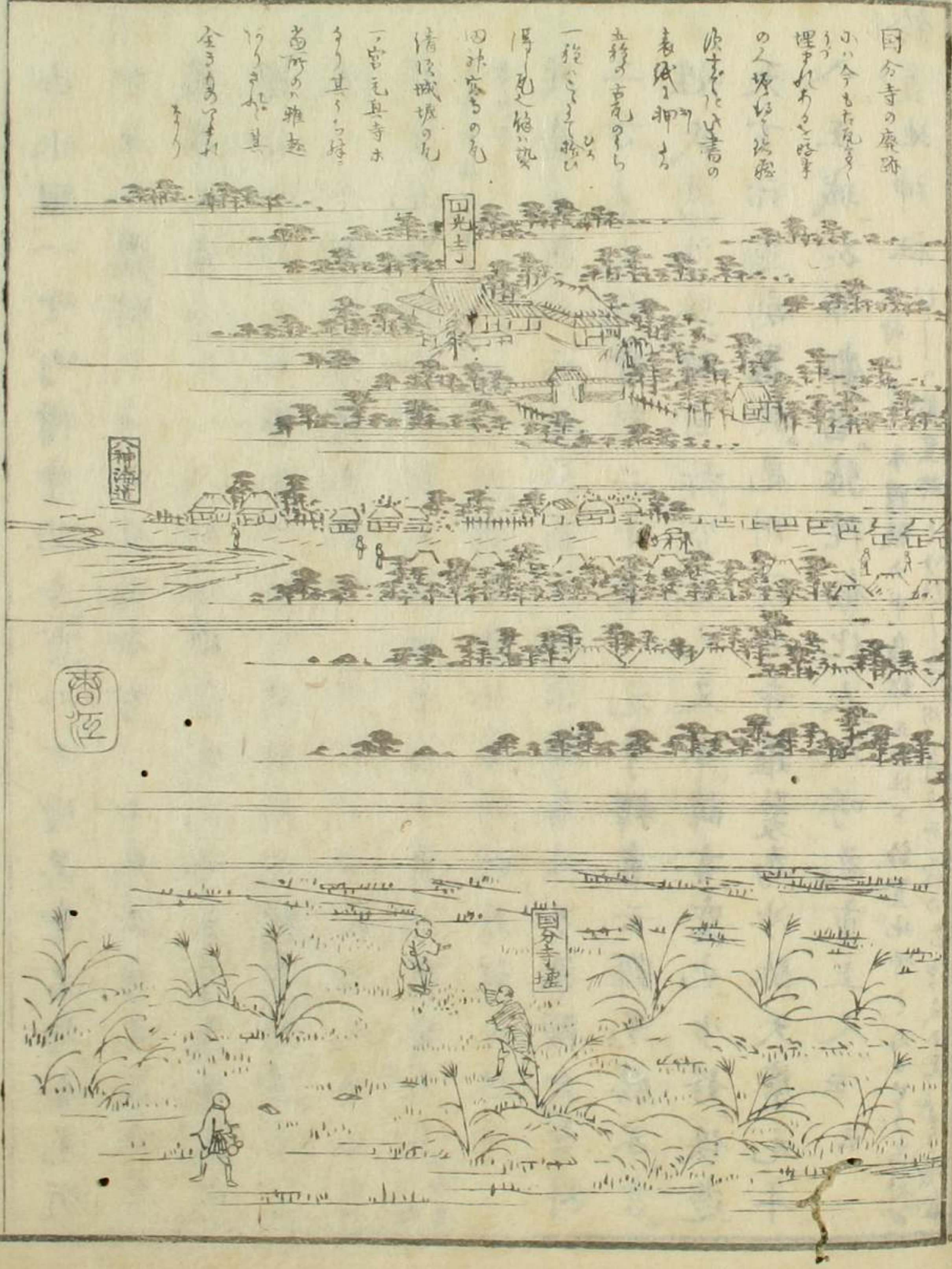
詔曰宜令天下諸國各敬造七重塔一區并寫金光明寂
勝王經妙法蓮華經各一部 續日本紀曰天平十三年三月乙巳
別擬寫金字金光明寂勝王經每塔各令置一部所真聖
法之盛与天地而水流擁護之恩被幽明而恒滿其造
塔之寺兼為國華 印行本華と花と次 必擇好處實可長久
近人則不欲薰臭所及遠人則不欲勞衆歸集國司等
各宜務在嚴飾兼盡潔清近感諸天庶幾臨護布告遐
迩令知朕意又每國僧寺施封五十戸水田一十町尼

國分寺廢跡

國分寺跡
鈴置地神社
圓興寺
圓光寺



國分寺の廢跡
今も古瓦多
埋りありて
の土塔は
依りて
表成し
五輪の
一輪は
得て
田舎
清は
宮毛
古所
全



香

寺水田一十町僧寺必令有二十僧其寺名為金光明
四天王護國之寺尼寺必令有一十尼其寺名為法華
滅罪之寺云云 又曰神護景雲元年五月戊辰尾張
國海部郡主政外正八位下刑部岡足獻當國國分寺
米一千斛授外從五位下 又曰天平感宝元年五月
戊寅尾張國山田郡人外從七位下生江臣安久多印行
本安
延喜主親式云尾張國正稅公廨各廿万束國分寺料
二万束文殊會料二千束 元亨釋書云釋光勝不言
姓氏為沙弥時自稱空也人不諱言空也少好佚遊
天下殆遍弱冠於尾州國分寺薙髮為沙弥天慶元年
入王城於市齎唱弥陀勸化人人呼為市上人云云
鈴置地神社 田村にあり 本國限小中島郡正四位下鈴置地神とあり 田村と
ひり 鈴置郷といひ 鈴置の古名なり 又いふ 鈴置の古名なり 又いふ 鈴置の古名なり

將軍宗尊親王之女梅君二十六年小倉にあり 其の母は 陸奥一忠公の
御孫なり 梅君は 田中肥後守と云ふ者なり 其の母は 梅君の母なり 其の母は 梅君の母なり
其の母は 梅君の母なり 其の母は 梅君の母なり 其の母は 梅君の母なり 其の母は 梅君の母なり

万松山圓光寺

田村にあり 臨濟宗妙興寺末永和元年妙興の田老天照禪師創
建後別 禪師の本像と安置 田石碑あり 此は禪師進化の地
なり

鈴置山圓興寺

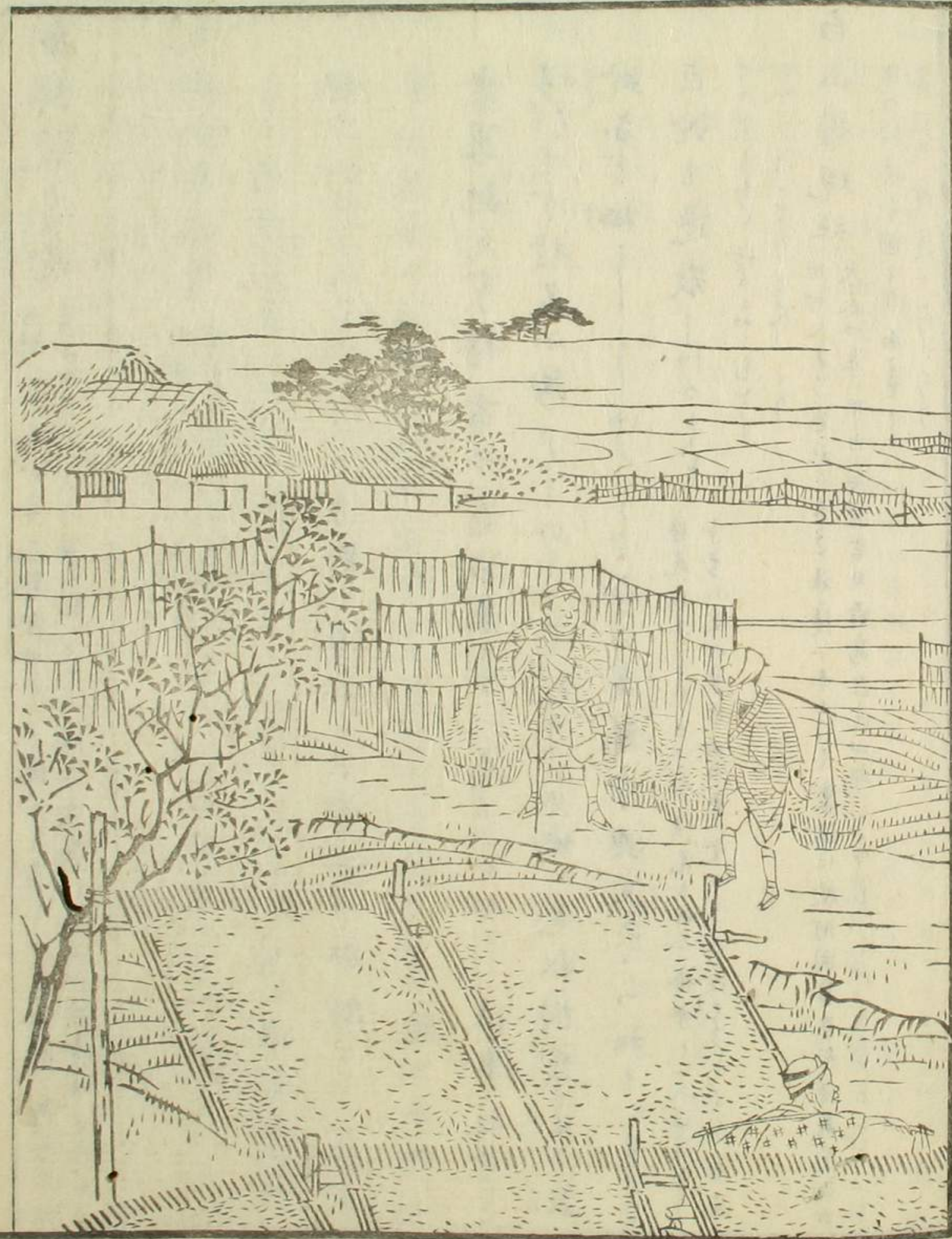
田村にあり 同宗同末南も永和元年天照禪師の創建なり
今俗にあきなり 寺と云ふなり 本像あり 又境内に秋庭堂あり
其の内の國分寺の古名なり 其の内の國分寺の古名なり 其の内の國分寺の古名なり
其の内の國分寺の古名なり 其の内の國分寺の古名なり 其の内の國分寺の古名なり
其の内の國分寺の古名なり 其の内の國分寺の古名なり 其の内の國分寺の古名なり

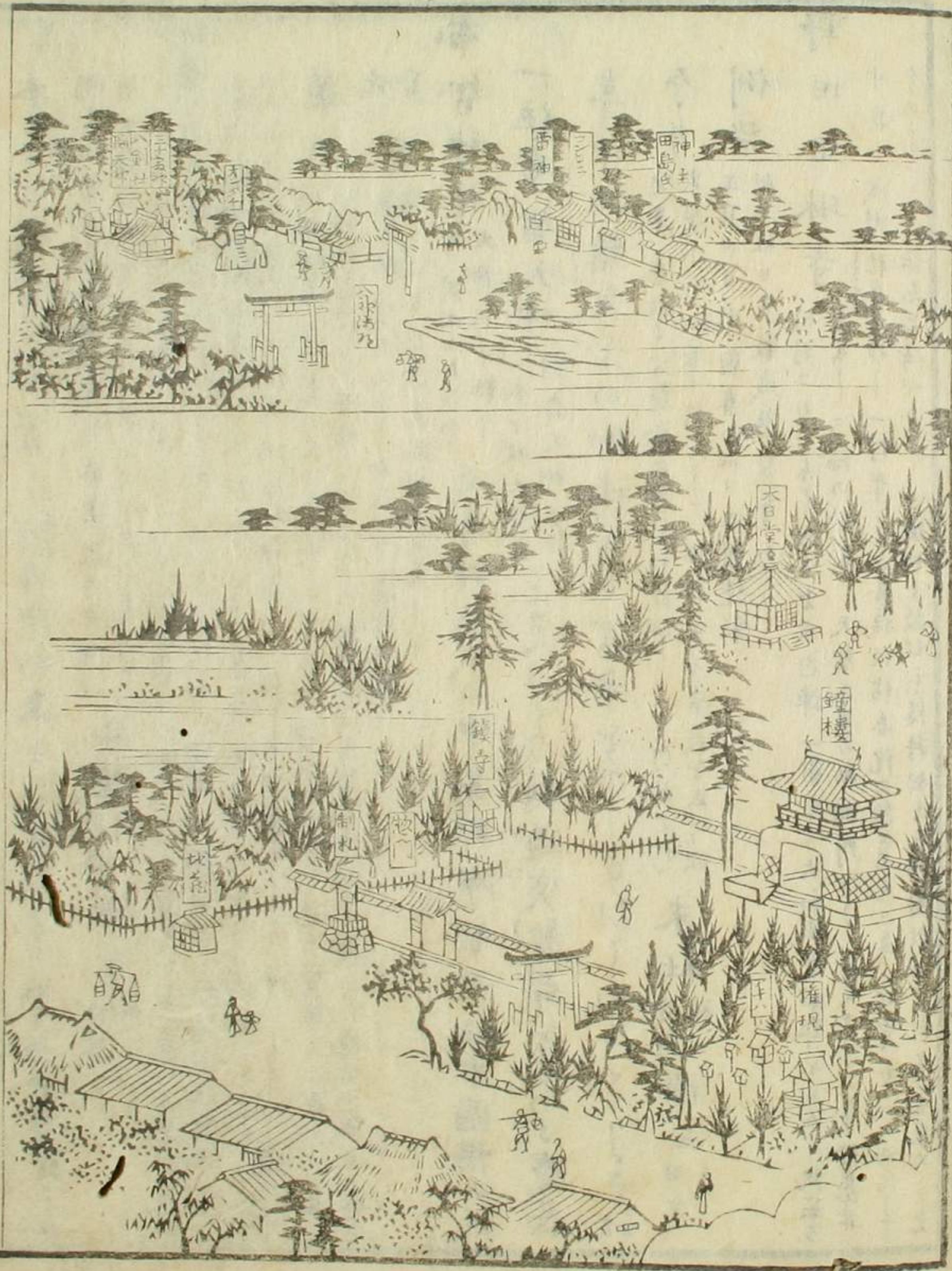
名産大根切干

田村及び近村に 物産次第に 鐵切干 輪切干 多し 作して南の
まへに 諸少運送 され 其の内に 南の名産の絶品なり あり

船橋舊址

船橋村にあり 本河川の支流にて 舟の出入り 甚だしく 大川の
舟の出入り 甚だしく 大川の舟の出入り 甚だしく 大川の舟の出入り 甚だしく
舟の出入り 甚だしく 大川の舟の出入り 甚だしく 大川の舟の出入り 甚だしく
舟の出入り 甚だしく 大川の舟の出入り 甚だしく 大川の舟の出入り 甚だしく





善應寺
川曲八剣社

八剣社の境内より全昆羅江
のふた紀より低の林叢とまじり
神樂を奏し投符とあひ
あむるこゝし編草葉亦西表
朝宮あり奉納の儀と教す
まづ八剣も人教多しと
ひ志すとの大塚人々



善應寺

本寺と別堂に安置一阿弥陀如来と云々 今の字

橋本伊賀守の位牌ありて善應院月窓明田 塔頭 鎮守

八剣社 同村あり 延喜神名式小中島郡布智神社本國帳小從

羅社 初唐田舎氏の宅にあり文化十二年の勅傳あるが年々歳々易し三月九月の十日

雷神社 境内にあり南村ハノもそと追々よりも多治の老翁跡一境内の跡命を祀ふ

布智神社 甲新田あり今 延喜神名式小中島郡布智神社本國帳小從

一位布智天神 一本に淵天神又 軒遇突智命とまつ慶長

年中に鎮火祭の御禱を官命と云々 未社 稲荷 神主 田島

例祭 正月十日奉射春の社日五穀種祭 秋の社日五穀成熟祭等あり

野田正琳寺 同村あり 延喜神名式小中島郡布智神社本國帳小從

王塚 山崎村にあり塚の上に地蔵の石像あり形古雅なり併傳しもん 俊道祖神と云々と

徳永法印城壘 昌と云ひ一書云々五年十一月尖塔の遺蹟と云々併傳しもん 考へて

八劍宮社 玉巻村あり 本國帳集説小式内の布智神社と此社にあり云々併傳しもん

伊福部御厨 祐久村あり 神及抄に二官尾張國伊福部御厨各八丈綿三足五丁と見

鹽江神社 中津村あり今 延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

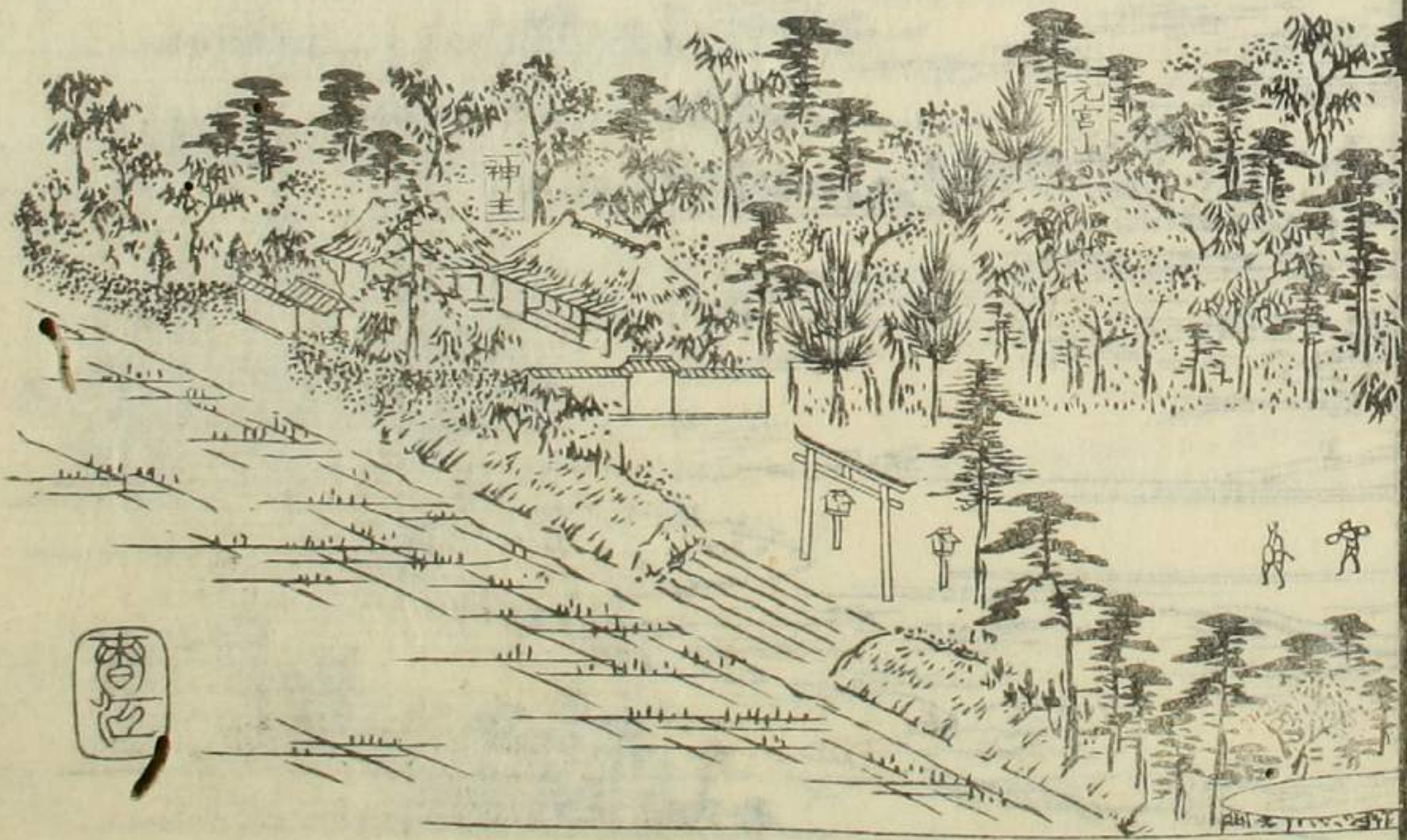
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

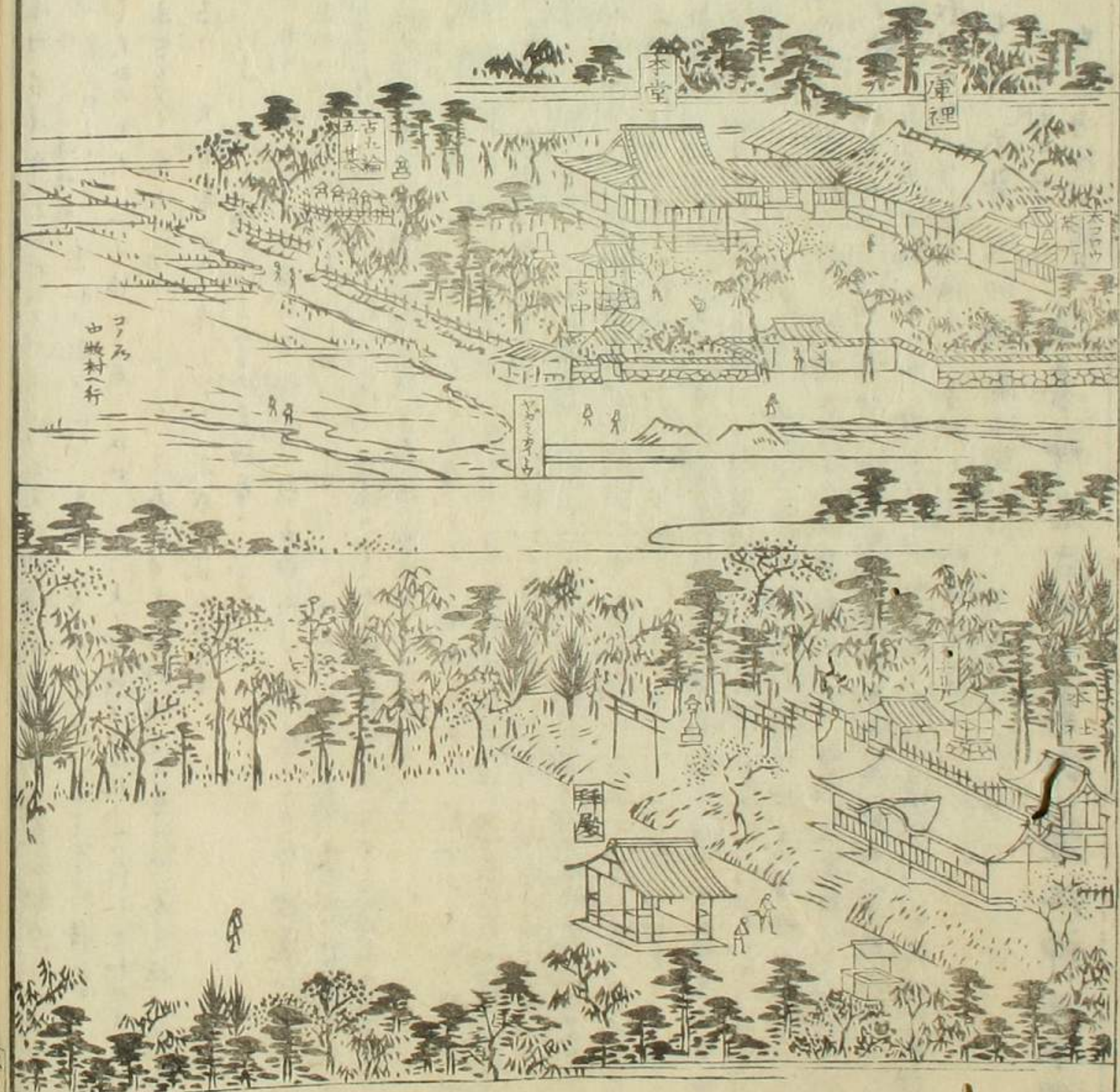
延喜神名式小中島郡鹽江神社本國帳小

布智神社

もろち葉れ
あしつと
あしつと
あしつと
水室長翁



正琳寺



祖父江堤
永張寺
廣口川
神明社

持尊と

言にあくさり

廣口川

川のうね鴨

うろや

南景



池古

高舟

津島

南

横井氏

廣口川

山王松

山王松

額内川

志みわうらとさそめ
山のうらさもある
おらさくそりの山
ワあさりわひとく
とまはしりし川の
ワ、廣口をさそめ
川のゆるさそり
少あつさつたつた
よらさそり
かさろひのそら
まふもさそり
さふもさそり
とむむさそり
海と堤のうら
足さそり

國洞



松

白文老青

松凌空似

偃盖仰看

憶昔人封

猶定何人

佐藤牧山

万寿寺

山崎村松

香

横井氏

從三位鹽江天神とありしり正月七日の祭年と陸江とありし稱も
と社名の跡は海あり 本國帳集説に臨川村の八幡とは官法に改されど陸江陸川の
八幡ありし 陸江のありし地名あり大塚村性海寺所藏の建武の頃の
証状の中島郡臨江とありし中野村の古名ありし

中野渡

中野村より本野川と號して美濃の八幡寺の跡地なり紅霞寺の八幡ハ毛
利氏の在所跡地ハ石河家の在所にも本州の長臣とて日と出府の人此
末ハ其の所の者通行する所なり又ハ川ハ向中野とて中野川と

名産櫻鮫

は色及び起川の名産之形も多し大さくして黒く鱗は色の斑
文あり美味し上品なり三月桜花咲きの時其味より好む者
得んは名産とて名産とて

一弓山永張寺

下祖又ハ村のあり曹洞宗 永祿元年三ツ洲村正眼寺十世
三ツ洲村正眼寺末

周恭和尚

一説ハ文 鳳洲寺と名づけしと寛永八未
明年中

神明社

同村のあり文正年中祖又江領主祖又江五郎在唐つ耐久豊よりして劫清り
後久を竹腰村一所のありし横井家の依地とありて寛永二年二月再

祖父江の古城址

同村のありし耐久豊の耐久豊の頃同耶
竹腰村のありし其子息孫九郎信勝居居して大膳亮又芳と号
し福岳正則の地あり其年中大坂陣の内中一内通

祖父江竿鷹

横井十郎在唐の先祖作在唐の時久鍛錬して仕わ
たる習熟なり其子小竿を時之も習熟者なりし國祖君習
匠匠を命じしを名りし

今小絶せし其家に傳ふし竿鷹の業あり其
して鴨のちり池川より四五町も方とふと放し忽ち揚と六
七尺も竿とておの多れ方へ竿を目あり竿を目あり

行り先一奇事とての池川より竿を遊らんとて
落来てるとのありし

横井家の妙術として世に傳ふし

長岡莊

上牧村中牧村二候村の敷村とて康正二年造内裏段錢并因役引付に雅樂備
中八道殿尾州長岡莊段錢とあり東鑑ありし佐々木近江守信繩入道ハ
宇多源氏の裔孫とては長岡莊の領主とて今其地定りあり

長岡莊

上牧村中牧村二候村の敷村とて康正二年造内裏段錢并因役引付に雅樂備
中八道殿尾州長岡莊段錢とあり東鑑ありし佐々木近江守信繩入道ハ
宇多源氏の裔孫とては長岡莊の領主とて今其地定りあり

長岡莊

上牧村中牧村二候村の敷村とて康正二年造内裏段錢并因役引付に雅樂備
中八道殿尾州長岡莊段錢とあり東鑑ありし佐々木近江守信繩入道ハ
宇多源氏の裔孫とては長岡莊の領主とて今其地定りあり

長岡莊

上牧村中牧村二候村の敷村とて康正二年造内裏段錢并因役引付に雅樂備
中八道殿尾州長岡莊段錢とあり東鑑ありし佐々木近江守信繩入道ハ
宇多源氏の裔孫とては長岡莊の領主とて今其地定りあり

長岡莊

上牧村中牧村二候村の敷村とて康正二年造内裏段錢并因役引付に雅樂備
中八道殿尾州長岡莊段錢とあり東鑑ありし佐々木近江守信繩入道ハ
宇多源氏の裔孫とては長岡莊の領主とて今其地定りあり

長岡莊

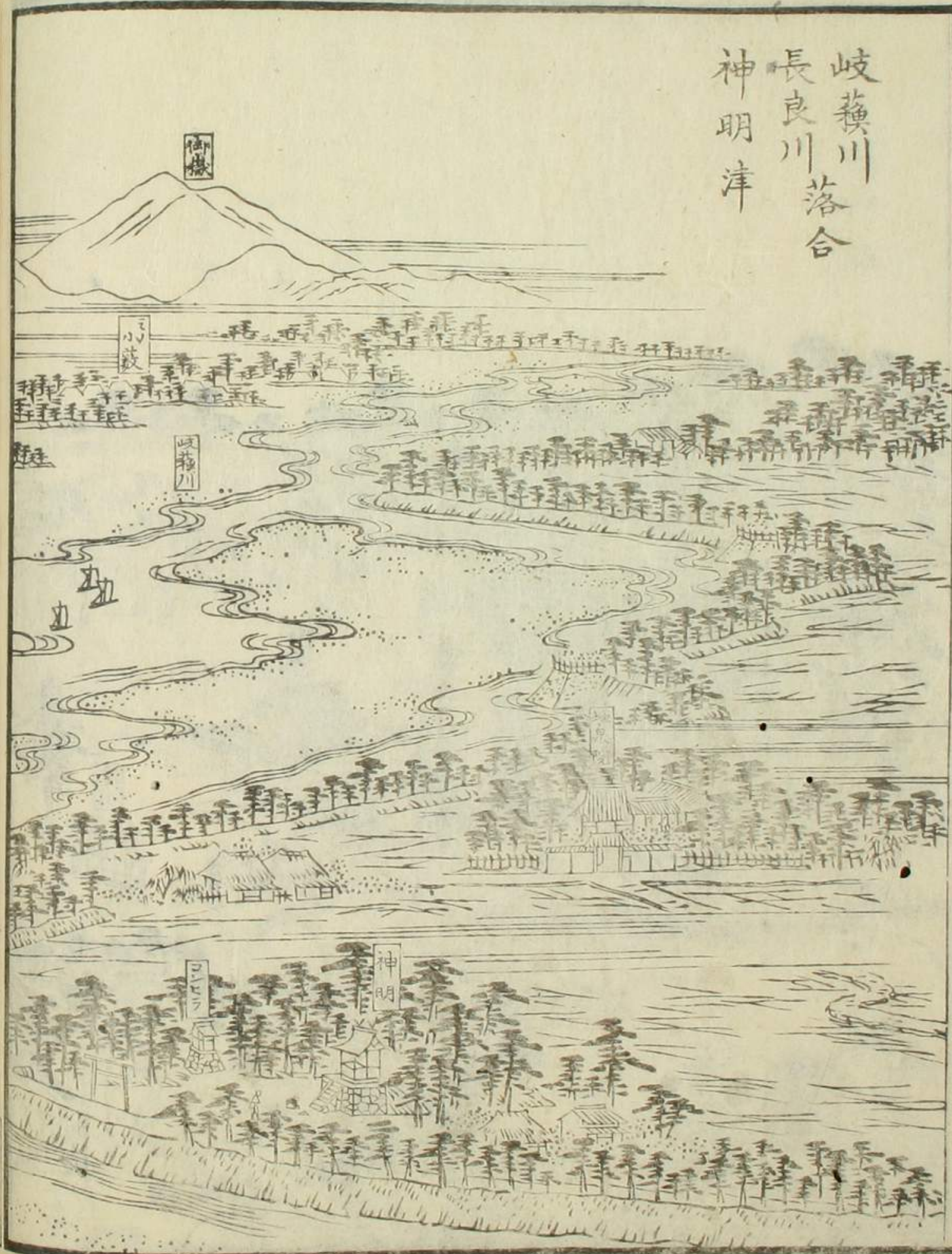
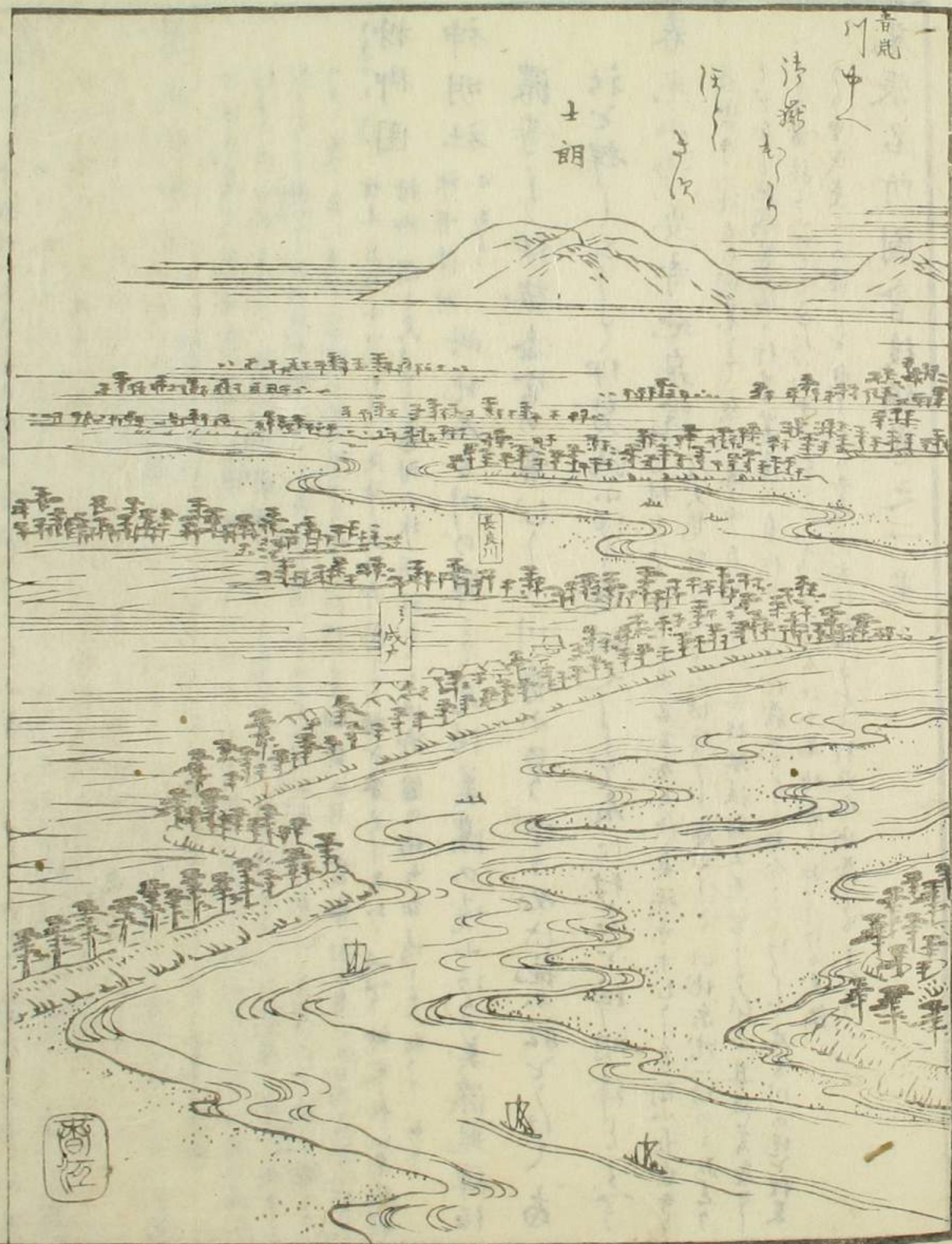
上牧村中牧村二候村の敷村とて康正二年造内裏段錢并因役引付に雅樂備
中八道殿尾州長岡莊段錢とあり東鑑ありし佐々木近江守信繩入道ハ
宇多源氏の裔孫とては長岡莊の領主とて今其地定りあり



皇大明神社

中枝の宮に雨城
つりて
所はるるの
神世の清名れ
河くまの
あハ
貞足





轟川

中牧村あり本志川の支流あり水音あり一里あり今大川の分佈も尾張國に登々川と云河内り菅清公記云大日貴少彦名命と巡國の附性還の足跡あり左跡あり注云俗跡謂之踏あり云云

皇大明神社

日本武尊素盞鳴尊春日大明神といふ社傳に日本武尊東征の時伊吹山に山林の毒小つとて死にかけしを伊吹山神の靈に救はれし事あり云々

神御園

神御園といふ村あり大津川の神園といふ社と奉りてあり神風抄に尾張國神明社あり

神明社

濃等より伊勢参官の者むり川舟小のり下り必此地小社とてけり

春光山浄安寺地泉院

長樂寺の住持の開基とて慈永年中真福寺の二品任瑜法師親王御弟とて其後長樂寺に遷り甲辰年三月に遷りて此の地を以て地泉院と名づけし事あり

尾張名所圖會後編卷之二 畢

